

北九州市立小・中学校の 規模のあり方について

～人と人とのかかわりを深め、学びあえる学校を目指して～

平成26年3月
北九州市教育委員会

学校規模のあり方の見直しにあたって

学校は、人と人とのかかわりの中で知識、技能、技術を教え、心身の育ちを促す場所です。そのため、学校の規模は、教育目標の達成に影響する大きな教育条件の一つとして、適正な規模を確保する必要があります。

本市ではこれまで、教育効果の向上と教育環境の整備を図るため、昭和 60 年に北九州市立学校児童生徒増減対策懇談会から提出された「北九州市立小・中学校の規模等のあり方について（意見具申）」（以下「意見具申」という）の内容を踏まえ、その改善に取り組んできました。

しかしながら、意見具申から 28 年が経過し、また、全国的に少子化が進行する中、本市における児童・生徒数も減少を続け小規模な学校が増加しています。このため、現行基準では十分対応できないところもあり、これまでの考え方についても見直しが必要となっています。

また、本市行財政改革の議論においても、小・中学校については、「教育効果の向上と教育環境の整備を図る」観点が重視されました。

こうしたことを受け、教育委員会では、学校を取り巻く環境の変化や、学校規模が与える教育への影響等に関する学識経験者等からの意見を踏まえ、学校規模のあり方についての新たな基準を策定しました。

今後はこの基準をもとに、子どもたちが人と人とのかかわりを深め、学びあえる学校づくりに取り組み、より良い教育を提供してまいります。

平成 26 年 3 月
北九州市教育委員会

目 次

第1章 学校規模適正化の取り組み	
1 児童・生徒を取り巻く状況の変化	1
2 これまでの取り組みと評価	2
3 課題	5
第2章 学校規模適正化の基準	
1 基本的な考え方	6
2 適正規模の基準	6
3 通学距離・通学支援の基準	9
4 学校規模適正化の進め方	9
第3章 通学区域に関する課題の方向性	
1 基本的な考え方	11
2 通学区域に関する課題の方向性	11
学校規模適正化基準策定の経過	13

[資料編]

第1章 学校規模適正化の取り組み

1 児童・生徒を取り巻く状況の変化

(1) 児童・生徒数の推移^{※1}

北九州市立小・中学校の児童・生徒数は、北九州市発足当時の昭和38年度をピーク（児童数：109,626人、生徒数73,236人）に減少し、第2次ベビーブーム世代の就学により、小学校では昭和49年度から55年度（104,546人）、中学校でも昭和52年度から61年度（49,585人）の間、一時回復したものの再び減少に転じている。

平成25年5月1日現在、市立小学校の児童数は48,983人、市立中学校の生徒数は24,272人であり、意見具申が出された昭和60年度（児童数93,838人、生徒数49,028人）と比較し、児童数は約48%、生徒数は約50%減少している。

(2) 学校数・学校規模の推移^{※2}

市立小・中学校の数は、昭和38年度に小学校117校、中学校55校であったが、新市街地における大規模な宅地開発及び第2次ベビーブーム世代の急増を背景に分離新設が行われたため、ピーク時における学校数は、小学校143校（昭和59年度から平成4年度）、中学校70校（平成2年度から9年度）となった。その後、学校規模適正化の取り組みにより、平成25年4月1日現在の学校数は、小学校131校、中学校62校であり、昭和60年度（小学校143校、中学校68校）と比較し、小学校約8%、中学校約9%の減少となっている。

学校規模については、昭和60年度当時、学校統合の検討が必要と考えていた11学級以下の小規模校^{※1}は、小学校で18校、中学校で12校であったが、平成25年度では、小学校で48校、中学校で37校となっており、3倍近くに増加している。

※1 **資料1** 北九州市立小・中学校の児童・生徒数の推移

※2 **資料2** 北九州市立小・中学校数の推移、**資料3** 学校規模の推移

【従来の学校規模の考え方（小・中学校共通）】

6学級以下	7～11学級	12～24学級	25～30学級	31学級以上
過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校

※特別支援学級を除く全学年の学級数

一方、分離新設の検討が必要な 31 学級以上の過大規模校については、昭和 60 年度、小学校 9 校、中学校 4 校であったが、平成 25 年度現在、本市には過大規模校はない※³。

(3) 学校を取り巻く環境の変化

本市では、平成 6 年度から、小学校区単位の地域づくり・まちづくりの取り組みが進められており、学校運営や地域における教育活動など学校と地域が連携した取り組みが展開されている。

さらに、子どもたちの安全確保が課題となる中、通学路における子どもたちの見守りやスクールヘルパー制度など学校と地域との係わりはますます重要となっている。

また、35 人以下学級の導入や中 1 ギャップなどの新たな課題に対応するための小中一貫・連携教育の実施など、昭和 60 年の意見具申当時から児童・生徒や学校を取り巻く環境は大きく変化している。

2 これまでの取り組みと評価

(1) 現行基準策定の背景

昭和 59 年 6 月に教育委員会は、市内小・中学校について、

- ・ 旧市街地のドーナツ化に伴う学校の小規模化
- ・ 郊外における大規模宅地開発による児童・生徒数の急増に伴う学校の大規模化

などへ対応するため、教育委員会の諮問機関として有識者からなる北九州市立学校児童生徒増減対策懇談会を設置した。

昭和 60 年 12 月には、1 年半に及ぶ議論を終え、懇談会から現在の適正化基準策定のもととなる「北九州市立小・中学校の規模等のあり方について(意見具申)」が答申された。

意見具申では、小規模校、大規模校に関して、それぞれ教育効果の面や管理運営の面から課題を整理し、その後の学校規模適正化の方向性を示している。

※³ 平成 25 年度現在、光貞小学校は大規模校であるが、北九州学術研究都市の宅地開発により児童数が急増しており、平成 26 年度には過大規模化する見込みである。このため、平成 29 年 4 月開校を目指し、小学校の新設に取り組んでいる。

(2) 現行基準

国が示す適正規模は、小・中学校ともに 12 学級から 18 学級（統合の場合は 24 学級）である。本市教育委員会ではこれまで、国の示す適正規模の考え方をもとに、昭和 60 年の意見具申を踏まえ、下記のような基準を定め、学校規模の適正化を図ってきた。

〔学校統合基準〕

学校の小規模化に伴う対応としては、以下のとおりである。

- ・ 市街地の小規模校（11 学級以下）を対象とすること
- ・ 原則として、2 つの小学校区で 1 つの中学校区を構成すること（2 小 1 中の原則）※⁴
- ・ 周辺過疎地域の小規模校については、活力を増す多様な改善策を検討すること

〔分離新設基準〕

学校の大規模化に伴う対応としては、以下のとおりである。

- ・ 30 学級 1,200 人を超え、なお児童・生徒数が増加を続け、用地確保も可能である学校については、分離すること
- ・ まず、通学区域の調整による学校規模の適正化を検討すること
- ・ 一時的に児童・生徒が増加している学校や用地確保が困難なため分離新設ができない学校の場合は、学校周辺の未利用地等を活用し、教育環境の改善に努めること
- ・ 社会的な要因などによって、かなり長期的に児童・生徒の増加が見込まれる場合には、分離新設について計画的に対応すること

また、基準にはないものの、郊外の複式学級※⁵解消のための学校統合や、学校統合により遠距離通学となる児童・生徒へ通学支援を行うなど、教育効果の向上や教育環境の整備の観点から必要な対応を図ってきた。

※4 「2 小 1 中の原則」

昭和 60 年の意見具申では、1 中学校区内に 1 小学校区の校区形態は、小・中学校の両課程を通じて 9 年間学年組織が固定化され、教育上活力と発展性を著しく制約されることから、原則として、2 つの小学校区で 1 つの中学校区を構成することとされていた。

(3) これまでの取り組みと評価

〔実績〕

昭和 62 年度から現在までに、学校統合においては、小学校 27 校を 13 校（▲ 14 校）に、中学校 16 校を 7 校（▲ 9 校）に再編した。^{※6}

また、分離新設においては、小・中学校ともに各 2 校（計 4 校）を新設した。

〔評価〕

学校統合では、統合後、児童・生徒、保護者、教員にアンケート調査^{※7}を実施し、多くの方から「統合して良かった」との評価を得ており、学校統合の目的を概ね達成していると言える。また、過大規模校の分離新設では、過密状態が緩和されるなど課題の解消が図られている。

- ・ 児童・生徒、保護者への統合後のアンケート調査では、児童・生徒の約 7 割、保護者の 4～5 割が、学校統合に関して「良かった」と評価
- ・ 一方、「良くなかった」との評価は、児童・生徒では 5%～15%程度、保護者では 5%～17%程度
- ・ 教員の評価については、サンプル数が少ないため回答にばらつきがあるが、統合して「良かった」が 27%～100%であるのに対し、「良くなかった」は 0%～18%となっている

※5 「複式学級」

小・中学校の学級は、同学年の児童・生徒で編制するものとするが、児童・生徒数が著しく少ない場合などに、数学年の児童又は生徒を一学級に編制することができる（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第 3 条）。

※6 資料 4 学校規模適正化の実績（昭和 62 年以降）

※7 資料 5 統合後アンケートによる評価

ひびきが丘小学校・花尾小学校（平成 18 年 7 月調査）、黒崎中央小学校（平成 21 年 10 月調査）、門司中学校（平成 23 年 6～7 月調査）

3 課 題

これまで、国の示す適正規模の考え方をもとに、昭和 60 年の意見具申を踏まえて学校規模適正化に取り組み、一定の成果を収めてきた。

しかし、現行基準は、市街地の小規模校を対象としており、全市的に少子化が進んでいる現状に合わなくなっている。加えて、2 小 1 中の原則についても、一定の条件を整えば、1 小学校区で 1 中学校区を構成する校区形態（以下、「1 小 1 中校区」という）の方が、小中一貫・連携教育の推進や地域との連携強化といった観点からはより効果的であることから、これまでの統合基準の考え方について見直しが必要となっている。

また、今後、学校規模適正化を進めるうえでは、適正な規模について、教育効果の面や管理運営の面から再検討するとともに、通学距離や通学支援のあり方についての基準を定めて、適切に対応していく必要がある。

第2章 学校規模適正化の基準

1 基本的な考え方

学校規模適正化は、児童・生徒の教育効果の向上と教育環境の整備を目的として行うものである。

学校規模適正化には、「学校統合」「分離新設」「通学区域変更」の3つの方法があり、いずれの方法によるかは、適正化の対象となる学校及びその周辺の学校の状況に応じて判断する必要がある。

なお、学校規模適正化にあたっては、校区の再編を伴い、まちづくりにも影響を与えることから、まちづくり協議会をはじめとする地域の関係団体及び市の関係部局と連携を図りながら、子どもたちの見守り活動等に支障をきたさないよう調整を図る必要がある。

2 適正規模の基準

(1) 国の示す適正規模の基準

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条では、適正な規模の条件を次のように定めている。

- ・ 学級数が概ね12学級から18学級までであること。
- ・ 5学級以下の学級数の学校と12学級から18学級の学校とを統合する場合は、24学級までとすること。

(2) 小規模な学校・大規模な学校の特長と課題^{※8}

学校現場へのアンケート調査や文部科学省の資料などから、小規模な学校や大規模な学校にはそれぞれ、次のような特長や課題が見られる。

※8 資料6 学校規模に起因する諸課題のアンケート調査結果の特徴

資料7 学校規模によるメリット・デメリット（例）

[小規模な学校]

小規模な学校では、管理職を含めて、全教員が全ての児童・生徒を知っているため、生徒指導面の共通理解が得られやすく、教員全体の同僚性^{※9}や協働性も生まれやすいといった特長がある。

一方、集団における個々の児童の役割や位置づけが固定化しがちで、社会性が育ちにくいことや、合唱や合奏など集団で取り組む学習などではグループ編成が難しく、また、中学校における部活動では、教員の数が少ないため、生徒の希望に合った多様な部活動を行うことができないといった課題もある。

また、学年に1クラスしかない場合、いじめなどの問題に対応する手立てが少なくなるため、小・中学校ともに、クラス替えができる規模（小学校では12学級以上、中学校では6学級以上）を確保する必要がある。

さらに、中学校は教科担任制であり、指導方法の工夫改善や校内研究体制の充実を図るためには、できるだけ同じ教科の教員を複数配置することが求められる。特に、授業時数の多い5教科^{※10}に複数の教科担任を配置するためには9学級（1学年に3学級）以上が必要である。

[大規模な学校]

大規模な学校では、人間関係が固定化されず、多様な考え方に触れながら社会性の発達を促しやすい。また、同じ教科の教員が複数いるため、教科の指導方法について情報交換ができるといった特長がある。

一方、学年間の教員相互間の連絡・連携が不十分になりがちであり、生徒指導では共通理解に立った適切な指導や対応を欠く恐れがある。

また、運動場や体育館の共用、特別教室利用の競合等が生じ、日常の教育活動や部活動に支障をきたしやすいことが指摘されており、特に31学級以上の学校では課題が大きい。

※9 「同僚性」

授業を公開する等のオープンな間柄にみられるような、(準) 専門家たる教師としてお互いに意見を出し合いながら成長を志していく関係性のこと。諏訪英広「◎同僚性」『学校経営重要用語 300 の基礎知識』第16巻、2000年、99頁（文責 波多江俊介 九州大学大学院生）

※10 国語、社会、数学、理科、外国語（英語）

(3) 適正規模の基準

以上のことから、小・中学校ともにクラス替えができ、かつ、中学校においては授業時数の多い5教科に複数の教科担任を配置できる規模（小学校12学級以上、中学校9学級以上）から、国の示す24学級までを適正規模とする。

【学校規模の分類】

学校規模	小学校	中学校
小規模校	11学級以下	8学級以下
適正規模校	12～24学級	9～24学級
大規模校	25学級以上	25学級以上

3 通学距離・通学支援の基準

(1) 国の示す通学距離の基準

通学距離については、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条に「小学校にあつては概ね4km以内、中学校にあつては概ね6km以内であること」と定められている。

(2) 統合後の通学距離・通学支援の基準

これまでの学校統合では、統合後の通学距離は概ね3km以内であり、これを超える場合には通学支援を行っている。

学校統合は、通学区域が2～3倍となるため、一部の児童・生徒にとっては通学距離が長くなり、あるいは通学路の環境変化により通学の負担が大きくなる場合がある。

このため、学校統合による児童・生徒の通学の負担や、通学の安全安心の観点から、統合後の通学距離、通学支援の基準を次のとおりとする。

- ・ 統合後の通学距離の目安は原則3km以内とし、これを超える場合は通学支援を行う。
- ・ ただし、統合後の通学距離が3km以内であっても、歩道が整備されていないなどのため著しく通学路の安全性に欠ける場合や、地理的な条件により児童・生徒の通学の負担が大きい場合などには、道路の整備等が行われるまでの間、必要な措置を講じる。

4 学校規模適正化の進め方

(1) 小規模校における適正化のあり方

小規模校の適正化にあたっては、次の基準に基づき計画的に進める。

- ・ 将来にわたって適正規模（小学校12～24学級、中学校9～24学級）を回復することが見込めない場合は、学校統合により規模の適正化を図る。その際には、周辺小・中学校の規模の推移等を把握し計画的に進める。

- ・ 少子化が進行していることから、全市域を対象に学校規模の適正化を推進する。
- ・ 統合してもなお適正規模に達しない場合であっても、複式学級の解消や単学級の学級規模の拡大など教育効果の向上が図られる場合には、学校統合を進める。その際、小・中学校の連携や他校との交流などにより、小規模校の課題の緩和に努める。
- ・ 小・中の校区形態は、2 小学校区で 1 中学校区を構成することを基本とするが、適正規模を確保できるときは、1 小 1 中校区となる場合においても学校統合を進める。

[1 小 1 中校区について]

昭和 60 年の意見具申では、1 小 1 中校区の課題が指摘されている。

しかし、適正規模が確保されている学校では、クラス替えなどにより課題の緩和が図られている。

学校統合により 1 小 1 中校区となる場合には、近隣の学校との交流などにより多くの児童・生徒とふれあえる機会を設けるよう配慮するとともに、子どもたち自身の意識変革を促す取り組みを行うなど課題の更なる緩和に努める。

一方、1 小 1 中校区は、小・中学校間の連携がしやすく、まちづくり協議会の範囲が小・中学校とも同じであることにより小・中学校を通じて地域の協力が得やすいなどの特長を生かした学校運営を進めていく。

(2) 大規模校における適正化のあり方

大規模校の適正化にあたっては、次の基準に基づき計画的に進める。

- ・ 国の分離新設の補助基準である 31 学級以上となり、その状態が長期間継続すると見込まれる場合で、かつ用地確保が可能である学校については、分離新設する。
- ・ 上記の場合であっても、用地確保が困難なため分離新設ができない学校については、中長期的な予測を踏まえ、以下により対応する。
 - ① 通学区域の調整による学校規模の適正化を検討する
 - ② 学校周辺の未利用地等を活用し、教育環境の改善に努める

第3章 通学区域に関する課題の方向性

1 基本的な考え方

市町村教育委員会は、市町村内に学校（小学校・中学校）が2校以上ある場合、就学予定者が就学すべき学校を指定することとされており（学校教育法施行令第5条）、本市では、あらかじめ住所地ごとに設定している通学区域に基づき就学校を指定している。

また、本市では、小学校区単位のまちづくり・地域づくりを推進しており、今後も、児童・生徒の住所地によって就学する学校を指定する、いわゆる指定校制度の下で、学校運営に取り組んでいく。

2 通学区域に関する課題の方向性

(1) 通学区域が2つの行政区にまたがる校区

学校行事には地域住民の協力を得て行うものもあり、地域組織が行政区単位で組織されることも多いことから、通学区域は1つの行政区の中でまとまることが望ましい。

ただし、地形や通学路の安全性、その地域コミュニティの形成過程等から、行政区をまたがる通学区域を設定することにも合理的な理由がある場合もあるため、総合的に判断する。

(2) 1小学校の通学区域が複数の中学校に分かれている校区

学校新設時の規模に合わせて通学区域が設定されたことなどから、1小学校の通学区域が複数の中学校に分かれている地域がある。

小・中学校の円滑な接続や学校と地域との連携による学校運営などからは、1つの小学校の進学先は1つの中学校とすることが望ましい。このため、学校規模適正化を実施する機会に、地域住民の理解と協力を得ながら解消を図っていく。

(3) 通学区域の一部が飛び地となっている校区

通学区域の一部が飛び地となっている校区については、通学区域を決定する際に地域住民の意向を踏まえて現在の状況になっているものである。このため、学校規模適正化を実施する機会に、地域住民の理解と協力を得ながら解消を図っていく。

学校規模適正化基準策定の経過

本基準は、九州大学による市内小・中学校教員アンケート調査や他都市の事例調査等を参考に、教育委員会事務局の職員で組織した「北九州市立学校規模適正化推進会議」で原案を作成し、公開の教育委員会会議で協議を重ねて策定した。

【教育委員会会議での協議経過】

	開催日時	協議内容
第1回	平成25年10月11日	① 「児童生徒を取り巻く現状」と「これまでの取組みと評価」 ② 現在の基準と課題
第2回	平成25年10月25日	① 「学校規模に起因する諸課題」についてのアンケート調査結果 ② 適正規模の考え方
第3回	平成25年11月15日	① 通学距離・通学支援のあり方 ② 通学区域に関する課題の方向性
第4回	平成25年12月13日	① 小規模な学校における適正化のあり方
第5回	平成25年12月20日	① 大規模な学校における適正化のあり方 ② 学校規模適正化を進めるうえでの配慮事項
第6回	平成26年1月24日	学校規模適正化基準（まとめ案）の協議
第7回	平成26年2月28日	学校規模適正化基準（まとめ案）の協議
第8回	平成26年3月14日	学校規模適正化基準の決定

【基準策定にあたって調査をお願いした学識経験者】

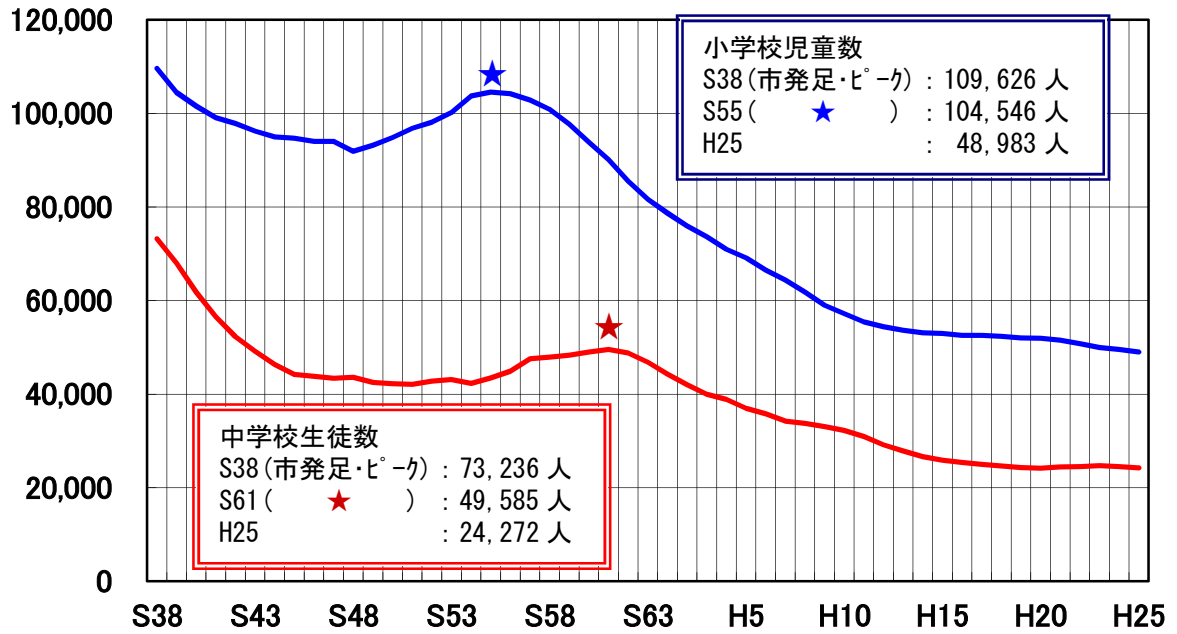
九州大学大学院人間環境学研究院 教育学部門
教育法制論研究室 代表 元兼 正浩 教授

資 料 編

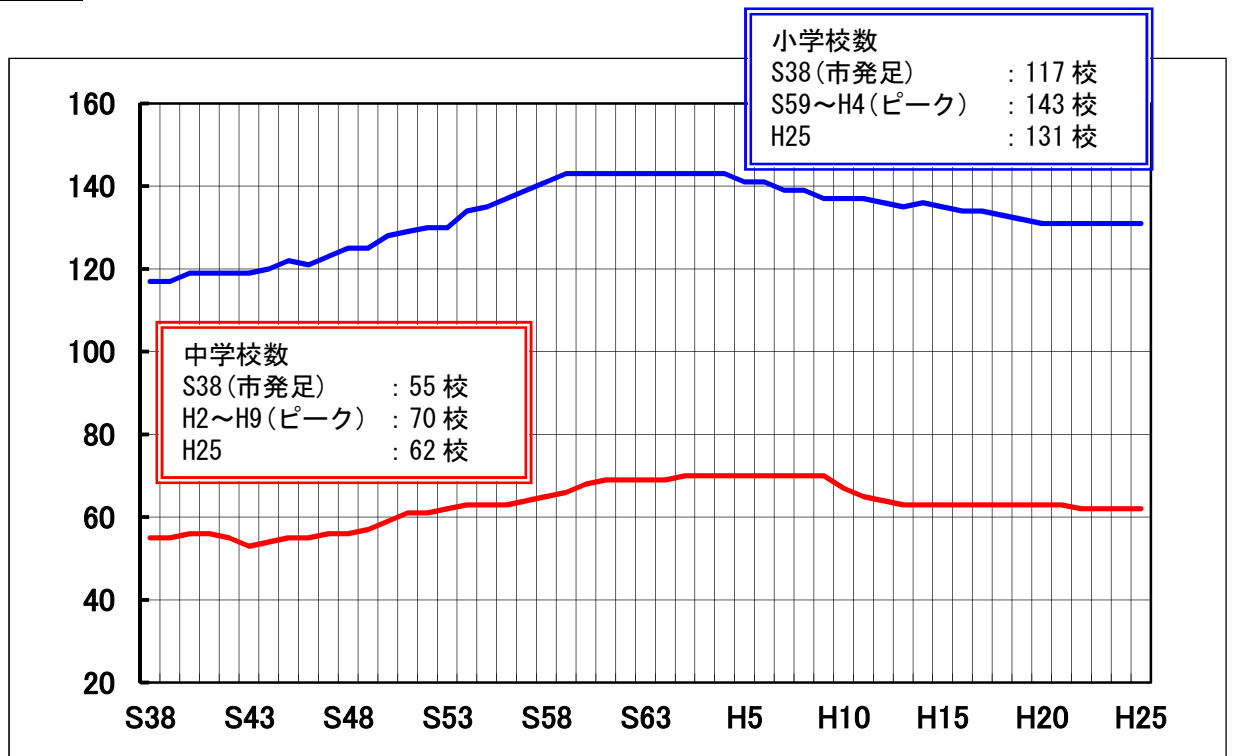
資料編目次

資料1	北九州市立小・中学校の児童・生徒数の推移	1
資料2	北九州市立小・中学校数の推移	1
資料3	学校規模の推移	2
資料4	学校規模適正化の実績	3
資料5	統合後アンケートによる評価	5
資料6	学校規模に起因する諸課題のアンケート調査結果の特徴	7
	添付 アンケート集計	25
資料7	学校規模によるメリット・デメリット（例）	44

資料1 北九州市立小・中学校の児童・生徒数の推移

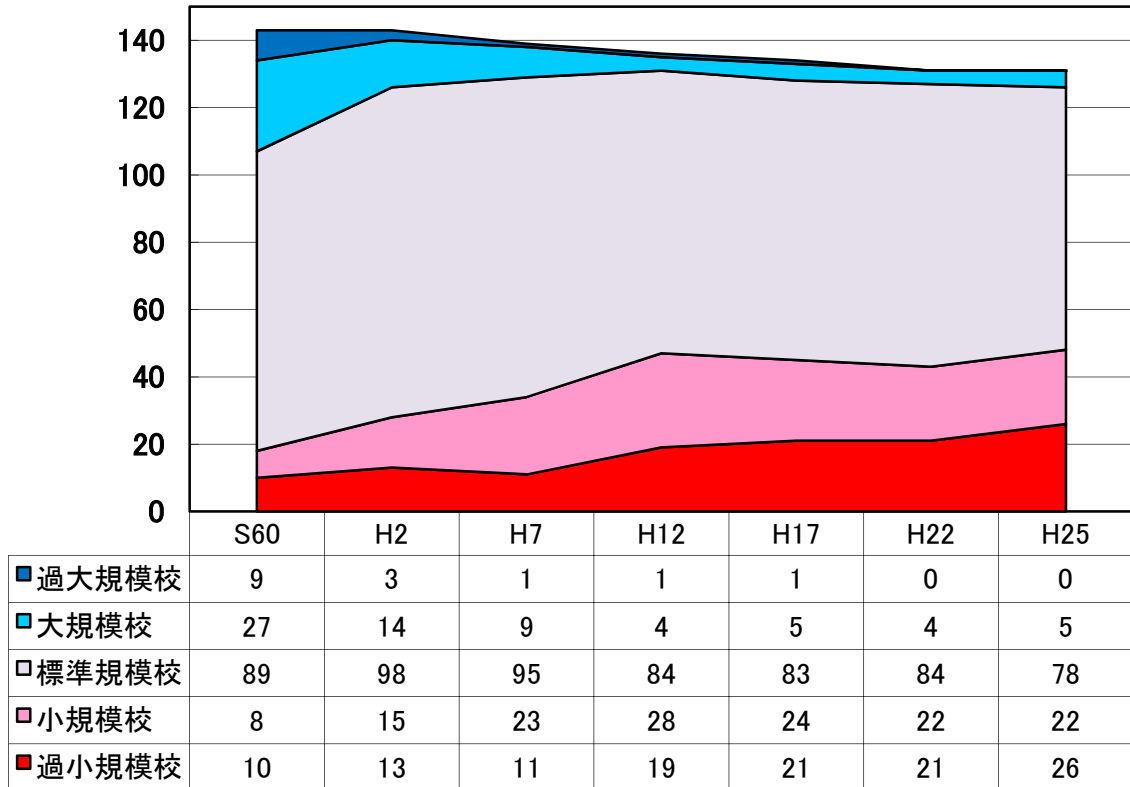


資料2 北九州市立小・中学校数の推移

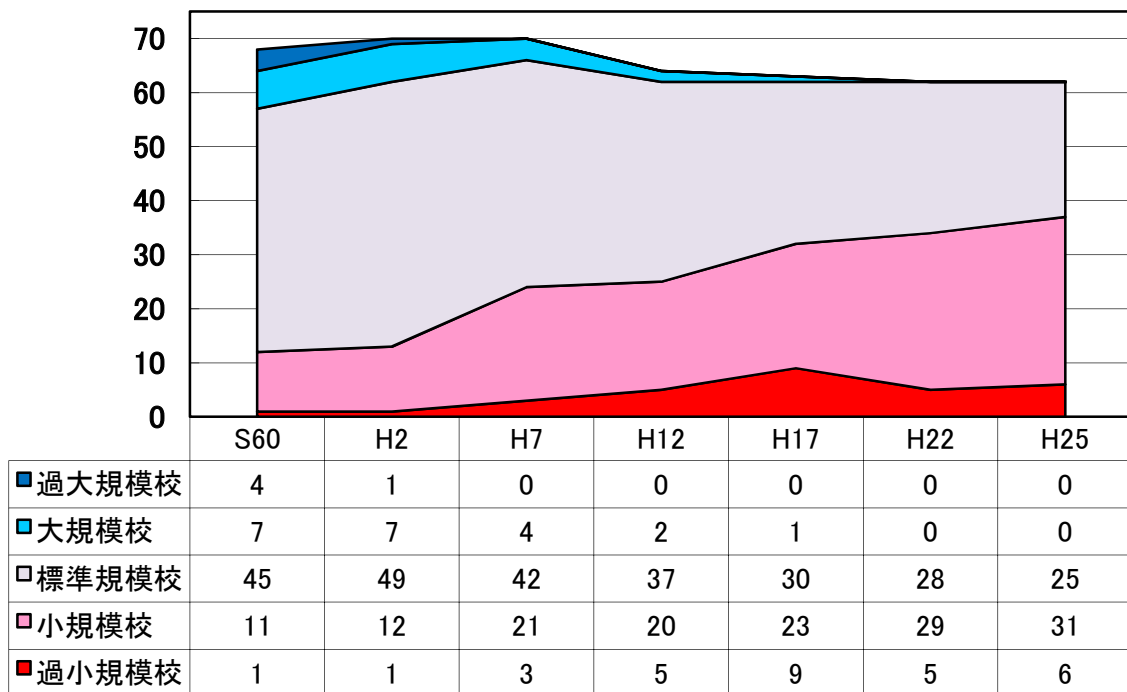


資料3 学校規模の推移

(小学校)



(中学校)



資料4 学校規模適正化の実績（昭和62年以降）

1 学校統合の実績

（小学校）27校→13校（▲14校） （中学校）16校→7校（▲9校）

(1) 小学校

区	統合年度	統合校(統合時の規模)	統合の組み合わせ(統合前の規模)
門司区	平成7年度	門司海青小(12)	錦町小(6)、丸山小(7)
	平成7年度	門司中央小(12)	庄司小(6)、門司小(12)
	平成11年度	港が丘小(H13移転時15)	清見小(12)、古城小(7)
小倉北区	平成3年度	小倉中央小(14)	小倉小(10)、米町小(7)
小倉南区	平成18年度	新道寺小(6)	新道寺小(6)、新道寺小平尾分校(2)
	平成20年度	すがお小(6)	道原小(3)、山本小(6)
若松区	平成9年度	若松中央小(13)	浜町小(8)、若松小(7)
八幡東区	平成5年度	皿倉小(H7移転時19)	尾倉小(6)、天神小(6)、平原小(12)
	平成15年度	ひびきが丘小(11)	大場谷小(6)、山の口小(7)
	平成16年度	花尾小(14)	平野小(7)、前田小(7)
八幡西区	平成19年度	黒崎中央小(13)	黒崎小(12)、陣山小(6)
戸畑区	平成9年度	あやめが丘小(18)	沢見小(12)、三六小(10)
	平成13年度	戸畑中央小(18)	浅生小(7)、戸畑小(12)

(2) 中学校

区	統合年度	統合校(統合時の規模)	統合の組み合わせ(統合前の規模)
門司区	平成9年度	門司中(H11移転時9)	港中(6)、吉野中(7)
	平成22年度	門司中(9)	風師中(4)、門司中(8)
若松区	平成10年度	若松中(19)	響南中(6)、星陵中(6)、高塔中(10)
八幡東区	平成13年度	枝光台中(10)	枝光中(6)、枝光北中(8)
	平成11年度	花尾中(14)	花尾中(13)、黒崎中(12)、陣山中(3)
八幡西区	平成11年度	黒崎中(11)	
戸畑区	昭和62年度	高生中(18)	浅生中(6)、高峰中(12)
	平成10年度	飛幡中(H12移転時17)	沢見中(7)、天籟中(9)、戸畑中(7)

※（ ）内は、特別支援学級を除く学級数

2 分離新設の実績

(小学校) 2校→4校 (+2校) (中学校) 2校→4校 (+2校)

(1) 小学校

区	新設年度	新設校 (新設時の規模)	分離元の学校 (分離前後の規模)
若松区	平成3年度	青葉小 (18)	高須小 (37 → 25)
八幡西区	平成14年度	星ヶ丘小 (22)	木屋瀬小 (29 → 12)

(2) 中学校

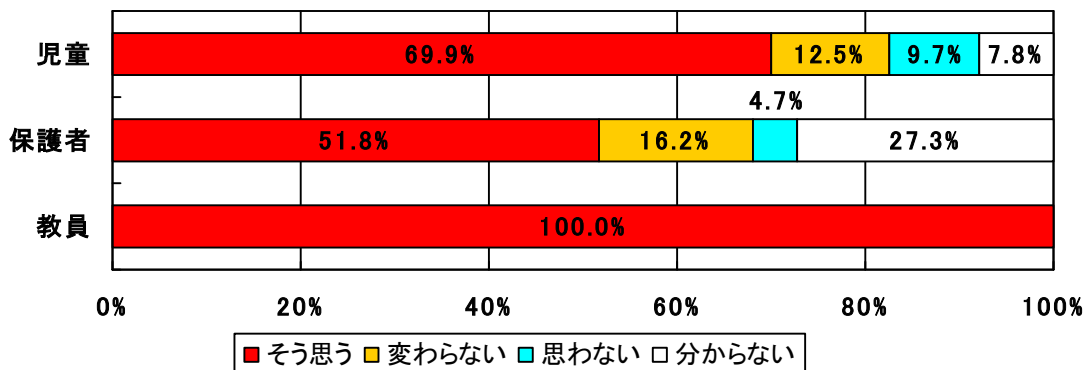
区	新設年度	新設校 (新設時の規模)	分離元の学校 (分離前後の規模)
小倉南区	昭和62年度	守恒中 (17)	志徳中 (43 → 24)
若松区	平成2年度	高須中 (15)	洞北中 (24 → 10)

※ () 内は、特別支援学級を除く学級数

資料5 統合後アンケートによる評価

1. ひびきが丘小学校、花尾小学校

Q 新しい学校になって良かったか(児童)、統合して良かったか(保護者・教員)

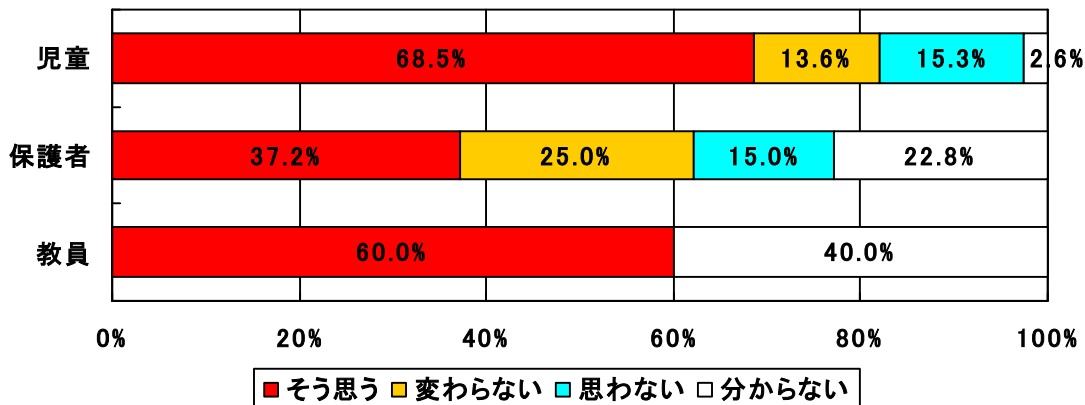


- ・ 統 合 年：(ひびきが丘小) 平成 15 年、(花尾小) 平成 16 年
- ・ 調査期間：平成 18 年 7 月
- ・ 対 象 者：統合校に統合前から在籍している児童とその保護者及び教員

	児童	保護者	教員
配 付 数	326 人	302 人	6 人
有効回答数	319 人	278 人	6 人
回 答 率	97.9%	92.1%	100%

2. 黒崎中央小学校

Q 新しい学校になって良かったか(児童)、統合して良かったか(保護者・教員)

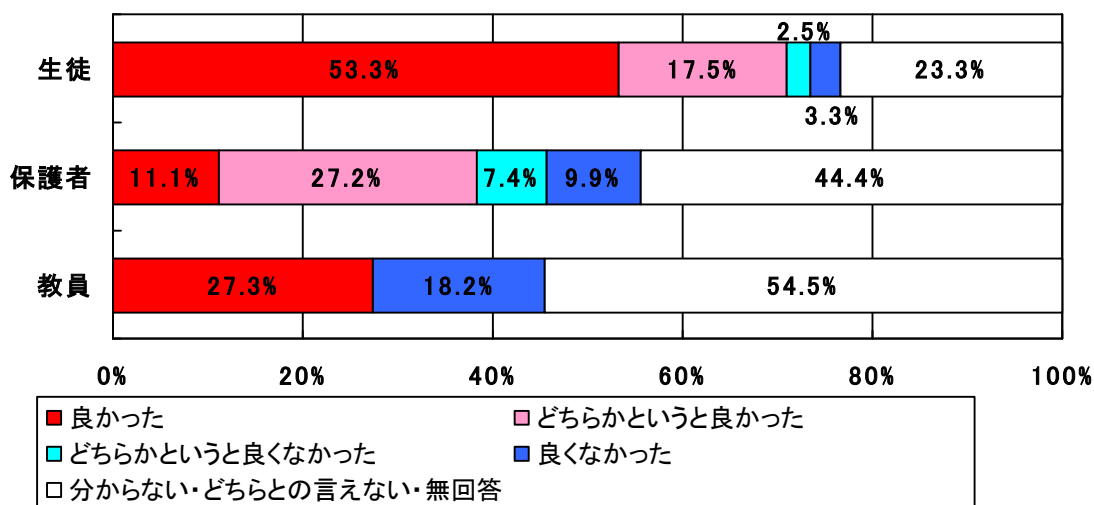


- ・ 統 合 年：平成 19 年
- ・ 調査期間：平成 21 年 10 月
- ・ 対 象 者：4～6 年生及びその保護者、旧黒崎小及び旧陣山小から引き続き在籍する教員

	児童	保護者	教員
配 付 数	257 人	234 人	6 人
有効回答数	237 人	183 人	6 人
回 答 率	92.2%	78.2%	100%

3. 門司中学校

Q 統合して良かったか(生徒、保護者、教員)



- ・ 統 合 年：平成 22 年
- ・ 調査期間：平成 23 年 6～7 月
- ・ 対 象 者：3 年生及びその保護者、統合前から在籍している教員

	生徒	保護者	教員
配 付 数	120 人	120 人	11 人
有効回答数	120 人	81 人	11 人
回 答 率	100%	67.5%	100%

4. 統合して良かった主な理由、良くなかった主な理由

	良かった主な理由	良くなかった主な理由
児童生徒 に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が増え交友関係が広がった ・ 学校が賑やかになった ・ 単学級でずっと続いてきた固定的な関係が切れ、新しい関係を持てるようになった ・ 部活の種類が増えた（中学校） ・ 部活動を支えてくれる人が増えた（中学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学距離が長くなり、重い荷物を持つての登下校が辛そう ・ 行動範囲が広がり、防犯上心配
教員配置 に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同学年に担任が複数いるので刺激を受け、教材研究も一緒にできた ・ 教職員の数が増えたので、分担ができた 	

資料6 学校規模に起因する諸課題のアンケート調査結果の特徴

1. アンケート及びヒアリングの実施状況

1. アンケートの実施状況

(1) 目的

新たな学校規模適正化基準策定にあたっての基礎資料とするため、昭和60年の意見具申で指摘された小規模校と大規模校の課題等に関して、北九州市立小・中学校の管理職及び教員にアンケート調査を行い、学校規模に関する学校現場の意識を検証する。

(2) 構成

- ① 基本事項（年齢等の個人属性）
- ② 小規模校の実態について（小規模校の勤務経験者のみ回答）
- ③ 大規模校の実態について（大規模校の勤務経験者のみ回答）
- ④ 共通項目（全員回答）
 - ア. 小規模校・大規模校のメリット・デメリット比較
 - イ. 理想の学校規模・学級規模
 - ウ. 学校規模とミドルリーダーの職責の果たしやすさとの関係
 - エ. 学校規模とストレス要因を含めた教員間のコンフリクトとの関係

(3) アンケートの種類と対象

- (a) 小学校管理職用（校長、副校長、教頭）
- (b) 小学校教員用（教諭、講師）
- (c) 中学校管理職用（校長、副校長、教頭）
- (d) 中学校教員用（教諭、講師）

(4) 実施時期 平成25年6月10日～6月28日

(5) アンケートの回収結果

回収結果		回収票数	回収率
小学校	管理職	237 / 260	91.2 %
	教員	1,503 / 2,260	66.5 %
中学校	管理職	115 / 125	92.0 %
	教員	878 / 1,395	62.9 %
合計		2,733 / 4,040	67.6 %

(6) アンケート結果の分析 九州大学に分析を委託

2. ヒアリングの実施状況

- ① 実施方法 九州大学に委託して実施
- ② 実施時期 平成25年9月4日～9月12日
- ③ 実施校数
 - 大規模な学校 小学校1校、中学校1校
 - 小規模な学校 小学校2校、中学校2校

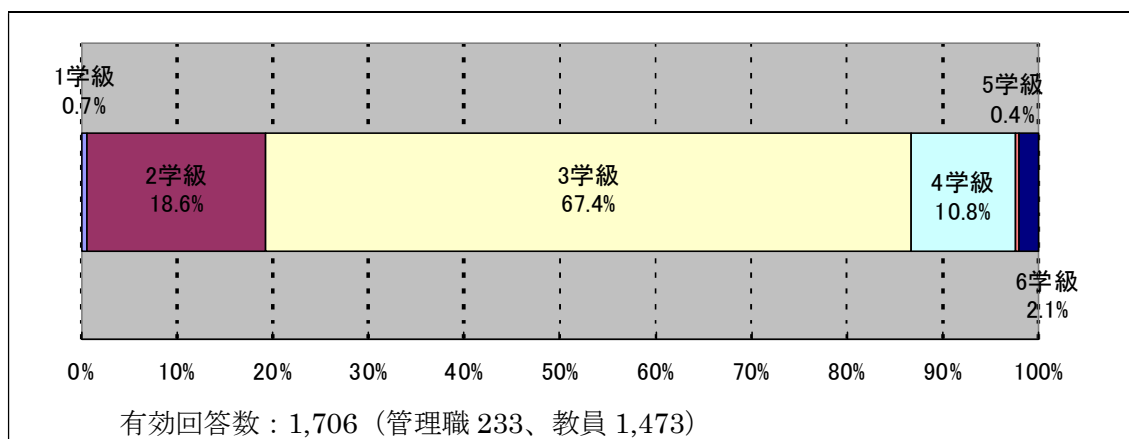
II. アンケート調査結果の特徴

1. 理想の学年規模について

- あなたの考える理想の「学年規模」を尋ねる質問では次のような傾向が見られる。

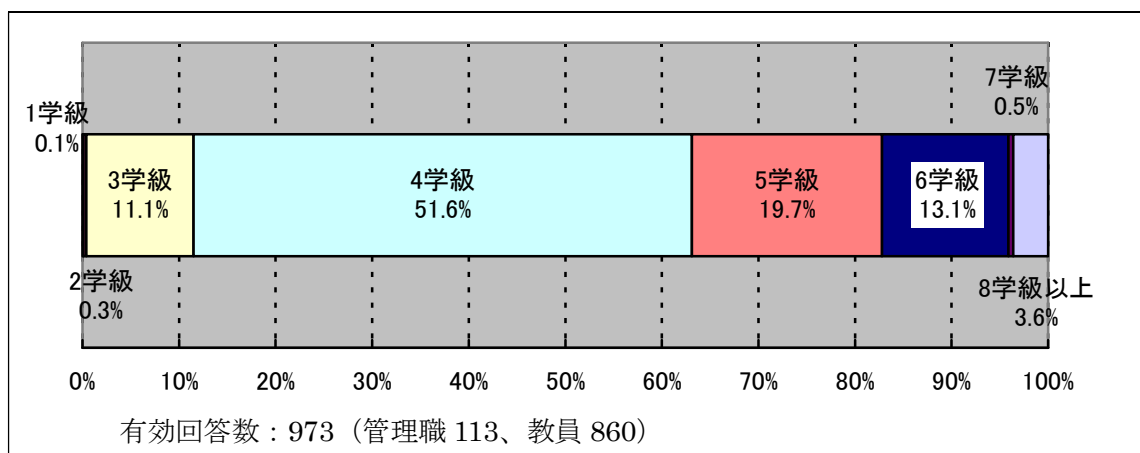
(小学校)

- ・ 理想の学年規模を2～4学級とする回答が96.8%を占めており、これを学校規模に換算すると12～24学級で、現在の標準規模と同じである。



(中学校)

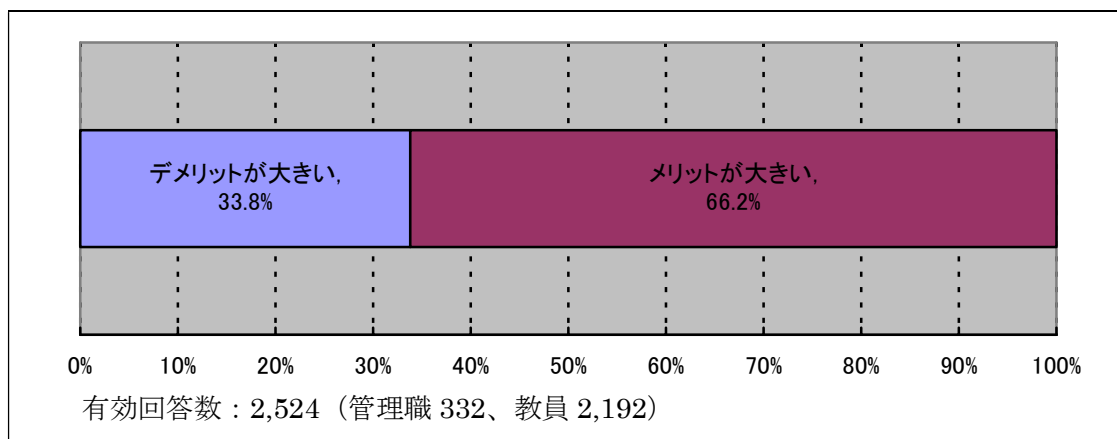
- ・ 理想の学年規模を3～6学級とする回答が95.5%を占めており、これを学校規模に換算すると9～18学級である。



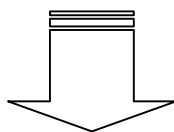
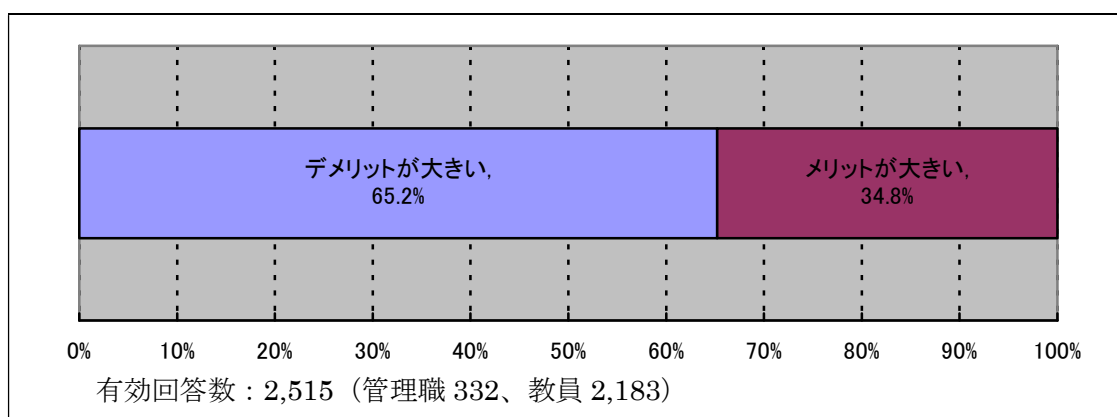
- ・ 1割以上の回答があったものを整理すると、学校現場においては、各学年の規模は、小学校では2～4学級、中学校では3～6学級を理想としている。
- ・ これを学校規模で考えると、小学校では12～24学級、中学校では9～18学級が理想であると言える。

2. 小規模校・大規模校のメリット・デメリット比較

- 小規模校・大規模校のメリットとデメリットの比較では、どちらが大きいと思うかという問いに関しては、次のような傾向が見られる。
- ・ 小規模校では「メリットが大きい」と答えた人が66.2%で、「デメリットが大きい」の33.8%を大きく上回った。



- ・ 大規模校では、逆に「デメリットが大きい」と答えた人が65.2%で、「メリットが大きい」の34.8%を大きく上回った。



このように捉えられる理由、及びアンケート結果から
確認できる特徴を九州大学が分析

3. 九州大学による分析〔平成25年10月25日教育委員会会議資料より（一部追記）〕

分析② — デメリットを感じにくい項目と感じやすい項目の分析 —

小規模校・大規模校に伴う課題について統計的に分析を行うため、質問項目を設定しました。

各質問項目は「1：思わない～4：その通りだと思う」の4段階で尋ねています。各質問項目について平均値を出し、「1～4」のちょうど半分「2.5」以上もしくは以下になるかを調べました。

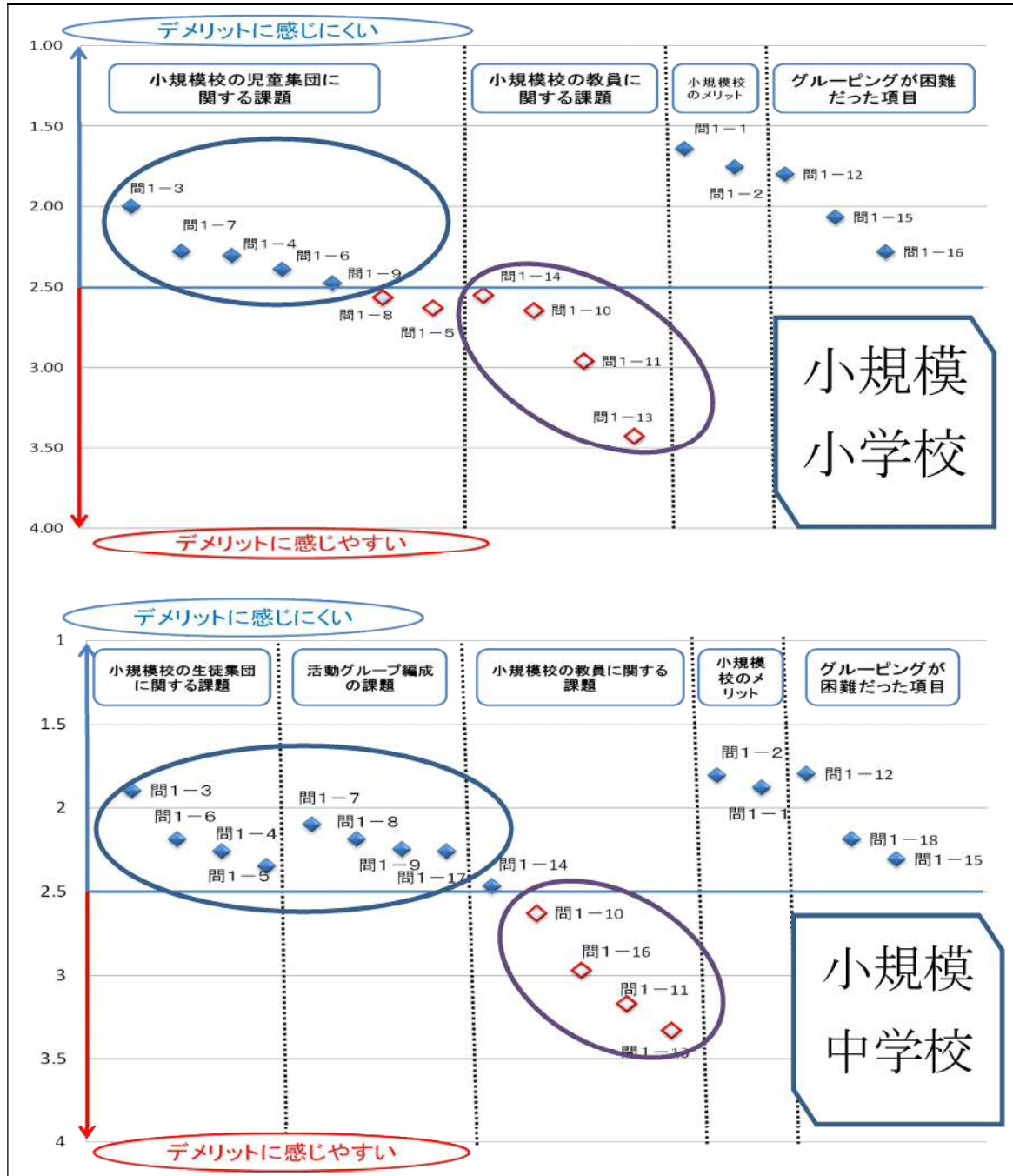
「2.5」以上であれば、課題について「4：その通りだと思う」ということになるので、「デメリットに感じやすい」エリアと考えます。

逆に「2.5」以下であれば、課題について「1：思わない」ということになるので、「デメリットを感じにくい」ということとなります。

なお、統計的に処理を行い、質問項目ごとにグループを形成できそうな質問をまとめ、グループ名を付けています。統計上処理できなかった項目は、「グルーピングが困難だった項目」と表記しています。

(1) 小規模小・中学校の課題

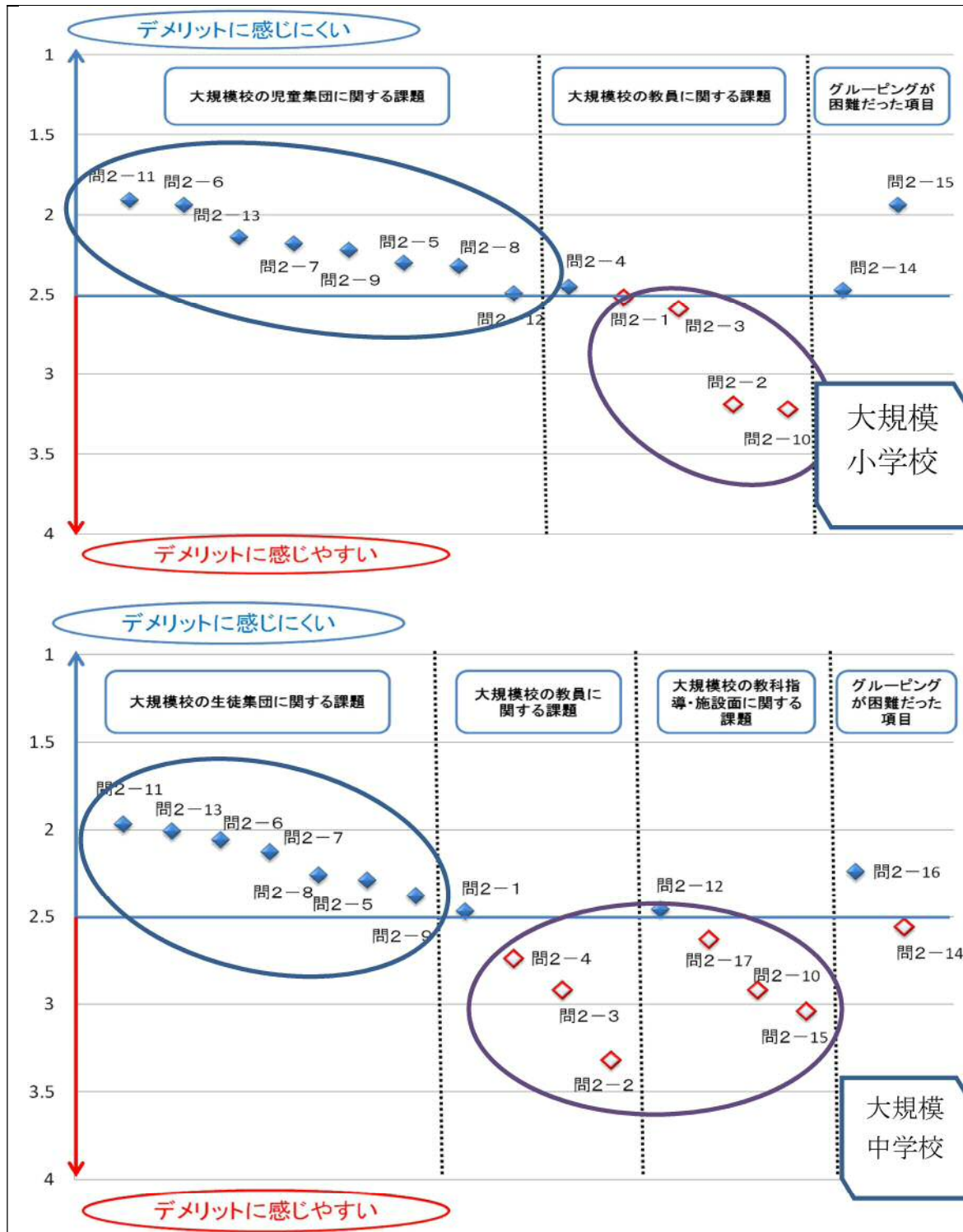
図3：小規模小・中学校の課題認識についての平均値散布図



⇒ 児童生徒に関する課題は、総じて「デメリットに感じにくい」ようです。反面、教員に関する課題は「デメリットに感じやすい」ことがわかります。また、小規模小学校に関しては、「児童集団に関する課題」の中で、「問1-5：集団における個々の児童の役割や位置づけが固定化しがちで、社会性が育ちにくいと感じる」と、「問1-8：合唱・合奏など、集団で取り組む学習などでは、グループ編成がしにくいと感じる」は、「デメリットに感じやすい」という結果が出ています。

(2) 大規模小・中学校の課題

図4：大規模小・中学校の課題認識についての平均値散布図



⇒ 児童生徒に関する課題は、総じて「デメリットに感じにくい」ようです。反面、教員に関する課題はやはり「デメリットに感じやすい」ことがわかります。

(3) ヒアリング調査結果のまとめ

ヒアリング調査結果のまとめは、次の通りです。

小規模校小・中学校の「メリット」

- 全ての子どもと教員が関わることができる（互いに全員の顔と名前を覚えられる）。
- 地域とのつながりも強く、子ども同士が幼馴染で仲がいい。
- 子どもは必ず何らかの役職をすることになる（責任感が生まれ、成長できる）。
- 子どもが自主的に実施するような形式をとらせることに時間が割ける。
- 防災教育なども子どもに作業させるなどして十分に徹底できる。
- 子どもに声をかけて指導しやすい、生徒を掌握しやすい、目が行き届く。
- 授業でもクラス全体に目配りができる、机間指導がしやすく、授業以外に、試験前に質問教室を開くこと等もできる。
- 校外行事はバス1台で回れる（過小規模校は大型タクシーでも可能）。
- 基本的に教員全員で決定する（曲がって伝わることなく、意思統一しやすい）。
- 職員室も情報を共有しやすい広さで、どの学年の授業も受け持つので、学年単位の学校運営をしない（できない）。

小規模小・中学校の「デメリット」

- 地域関連行事が多く、準備調整など教員にとっては負担が大きい。
- 1人当たりの校務分掌上の仕事が多い、教員の負担が大きい。
- 緊急対応には教員数が不足する（ゲリラ豪雨時の下校指導等）。
- 人数が少ないため、体育の授業でのチーム分けが難しく、水泳指導にも教員が不足するため安全面に不安が残る。
- 人間関係が固定化しがち。「あの子ができる」「あの子に任せればいい」というように。
- 体育祭、運動会等の準備・運営については、教員・管理職及び児童・生徒の負担が大きく、さらに、競技においては、同学年内で競わせることができない（しにくい）。
- 中学校では、部活動の種類や顧問教員の配属、部員の確保等が困難な状況である。
- 小学校では、学校対抗の競技会や音楽会等に出場できない（しにくい）。

大規模小・中学校の「メリット」

- 人間関係が固定化しない。
- 同教科の教員が複数いるので、教科の情報交換ができる。
- 校務分掌上の教員一人当たりの負担が小さく、教員の分掌配属も決めやすい。

大規模小・中学校の「デメリット」

- 収容スペースの問題で音楽会では全員が入場できないため、保護者の入れ替えが必要。
- 遠足等では、生徒が多いので時間差が生じる（交差点指導、トイレの時間等）。
- 運動場・体育館・特別教室使用等で競合が生じやすく、調整が必要。
- 収容スペースの限界から、校内の人口密度が増え、ケガする子どもが増加している。

- 授業をみる時間が少なく、教員評価がしにくい。
- 教員数が多いので、行事も含めて教員の負担が偏ることがあり、事実、教員や子ども同士で「誰かがやってくれる」という雰囲気は垣間見える。
- 卒業式等の行事に時間がかかる。

⇒ ヒアリング結果では、小規模校のデメリットとして、人間関係の固定化等が挙げられています。それに対しては、地域とのつながりの強さを活かし、運動会に地域の方に参加してもらう行事を設定する等、教員が工夫を行うことで、子どもにデメリットを与えないための多様な機会の提供がなされています。

反面、それらの調整等は、教員にとって負担の面もあります。これらのことから、小規模校のメリットを生かして子どもたちに自主性を育む機会を多く提示すると同時に、教員の頑張りでも小規模校の子どもに及ぼすデメリットを抑える工夫をしていると言えますが、その分の教員負担もあります。

(1) 小規模の課題において、児童生徒集団に関する課題はデメリットに感じにくく、かつ教員に関する課題はデメリットに感じやすいのは、こういった理由が考えられます。

よって、小規模校のメリット・デメリット比較で「小規模校はメリットが大きい」と感じられるのは、教員の努力により子どもにとってメリットのある教育環境を提供していることが理由として考えられます。ただし、図3から、子どもの社会性の向上、グループ編成上の課題等は、「デメリットに感じやすい」と示されているように、教員の努力でも限界がある部分です。

大規模校はヒアリング結果から、メリットもデメリットもほとんどが教員に関することであると分かります。

大規模校のメリット・デメリット比較の結果と合わせて考えると、大規模校は教員にとってのデメリットとして認識されやすく、その中には学校施設使用の競合や、物理的スペースの手狭さ等、教員の努力では解決しがたい部分が含まれます。

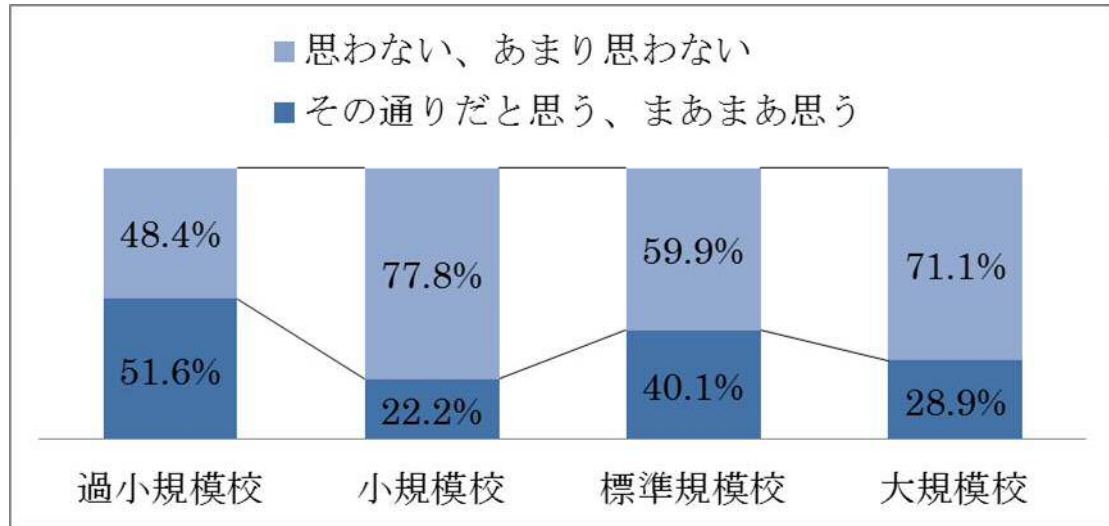
どちらかというデメリットとして認識されやすい分、相対的にメリットとして認識されづらい状態となっています。その結果が「大規模校はデメリットが大きい」と感じられていることに顕れています。

したがって、小規模校のメリット・デメリットと、大規模校のメリット・デメリットとについて、小規模の課題と大規模の課題とはそれぞれ性質の異なる部分が多く、単純な比較ができないと言えます。

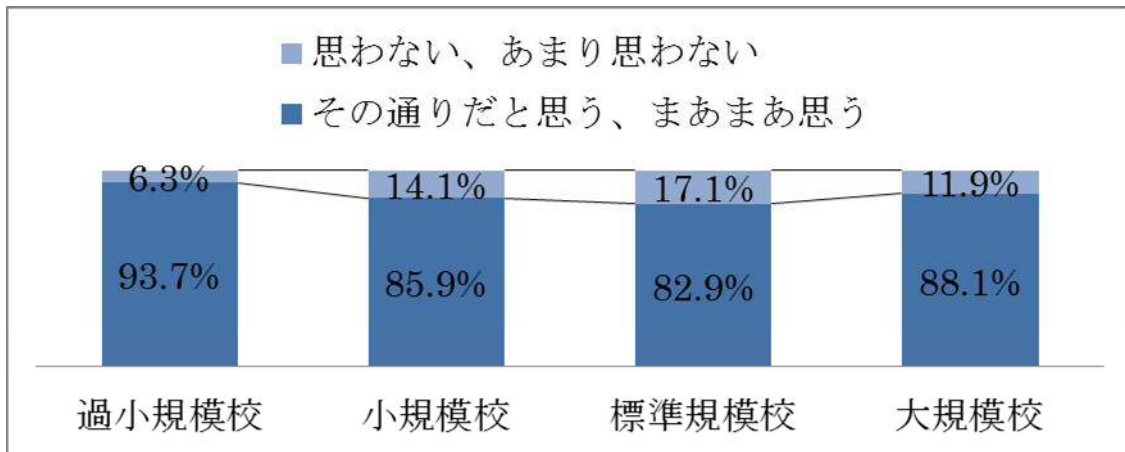
(4) 在籍校規模との関係

先生方が現在勤務されておられる学校の規模と、各課題を認識しているかどうかとの関係について分析を行いました。統計的に意味のある差が出たのは、次の5項目です。

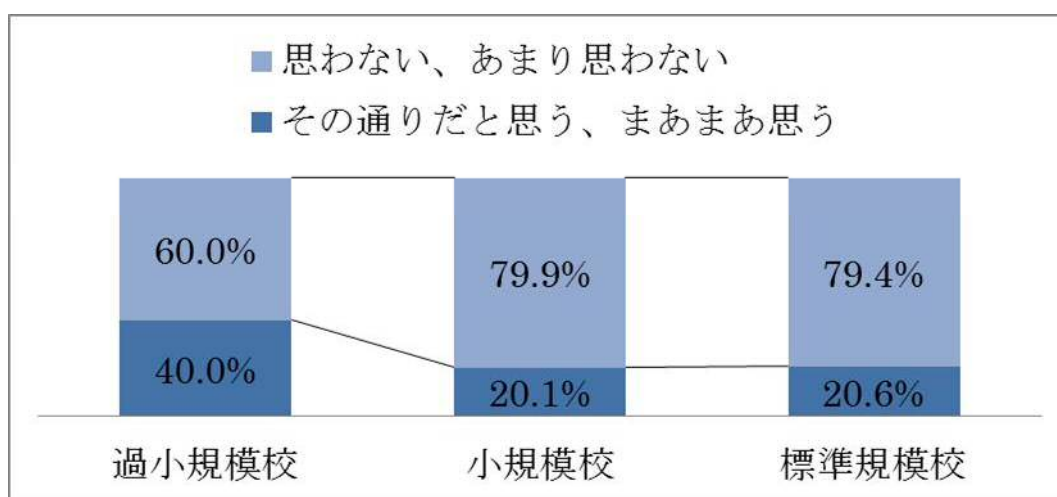
図：「小規模校の児童集団に関する課題」認識に関する在籍校規模別の整理（小学校）



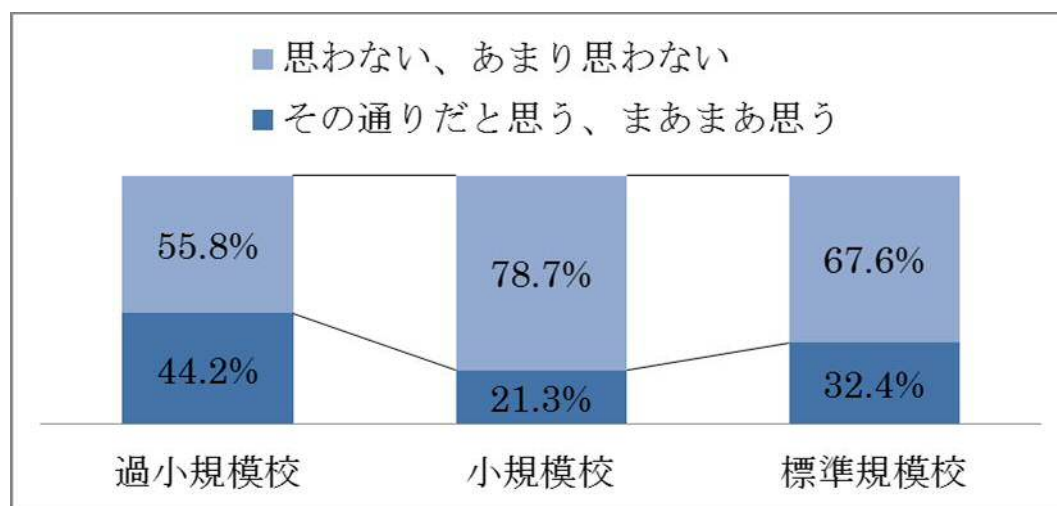
図：「小規模校のメリット」認識に関する在籍校規模別の整理（小学校）



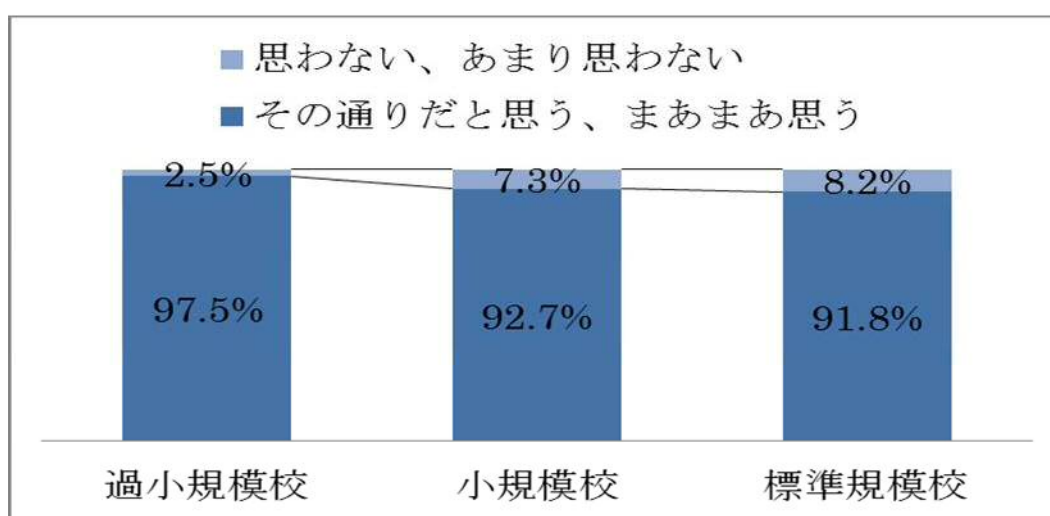
図：「小規模校の生徒集団に関する課題」認識に関する在籍校規模別の整理（中学校）



図：「活動グループ編成の課題」認識に関する在籍校規模別の整理（中学校）



図：「小規模校のメリット」認識に関する在籍校規模別の整理（中学校）



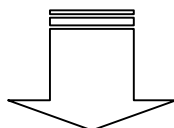
大規模校の課題認識については、在籍校の規模との関係性は統計上見出せませんでした。

上記分析結果から言えることとして、小中学校教員の認識について、特に在籍校が過小規模校であれば、教育活動上のメリットを感じやすい一方で、小規模校がもたらす課題も強く認識される傾向にあることが挙げられます。つまり、過小規模校に在籍していると、小規模校のメリット・デメリット両方を強く認識する傾向があるようです。

結論：

- ☆ 学校規模が児童生徒に与える影響は、小規模小学校の課題の一部を除き、いずれの学校でも総じて「デメリットに感じにくい」という結果が確認された。
- ☆ 反面、学校規模が教員に与える影響は、いずれの学校でも総じて「デメリットに感じやすい」という結果が確認された。
- ☆ 中でも、過小規模校は他の学校規模校に比べて、規模がもたらす影響について、メリットとしてもデメリットとしても強く感じるという、両極端な結果が確認された。

以上が九州大学からの報告の概要



デメリットに感じられている小規模校の課題には、どのようなものがあるのか。

4. 課題として認識されている事柄について

※ 「そのとおりだと思う」「まあまあ思う」を合わせた割合が50%以上のものを課題と認識されているものとした。

(1) 小規模校の児童・生徒集団に関する課題、活動グループ編成の課題

※ これらの課題については、九大の分析で、在籍校の規模別の課題認識において統計的に意味のある差が出たものであるため、在籍校が過小規模校の場合の結果を()に記載した。

- ・ 児童・生徒がお互いに刺激しあって学習意欲を高め、学力を向上させることが期待しにくいと感じる。

小学校 管理職：47.9% 教員：36.7%

中学校 管理職：35.8% 教員：34.9%

【在籍校が過小規模校の場合】

小学校 管理職：44.4% 教員：53.5%

中学校 管理職：36.4% 教員：60.0%

- ・ 集団における個々の児童・生徒の役割や位置づけが固定化しがちで、社会性が育ちにくいと感じる。

小学校 管理職：70.6% 教員：57.4%

中学校 管理職：47.4% 教員：42.4%

【在籍校が過小規模校の場合】

小学校 管理職：67.4% 教員：76.1%

中学校 管理職：54.5% 教員：70.9%

- ・ 児童・生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、学びあう中で培われる様々な能力が形成されにくく、集団としての活力の低下を生じやすいと感じる。

小学校 管理職：57.3% 教員：43.4%

中学校 管理職：37.2% 教員：30.6%

【在籍校が過小規模校の場合】

小学校 管理職：52.2% 教員：59.5%

中学校 管理職：54.5% 教員：56.4%

- ・ 合唱・合奏など、集団で取り組む学習などでは、グループ編成がしにくいと感じる。

小学校 管理職：58.0% 教員：52.5%

中学校 管理職：49.0% 教員：30.3%

【在籍校が過小規模校の場合】

小学校 管理職：55.5% 教員：62.4%

中学校 管理職：81.8% 教員：52.7%

- ・ 体育の授業では、チーム編成などが難しく、活動がしにくいと感じる。

小学校 管理職：54.3% 教員：46.3%

中学校 管理職：57.2% 教員：34.5%

【在籍校が過小規模校の場合】

小学校 管理職：54.3% 教員：53.5%

中学校 管理職：72.8% 教員：48.1%

- ・ 小規模校における、児童・生徒の集団における個々の役割や集団としての活力についての課題では、小学校の方が課題として認識されている。これは、小規模小学校の場合、いずれかの学年で必ず単学級が生じることによるものと思われる。
- ・ また、在籍校が過小規模校の場合、特に教員の課題認識の割合が、小・中学校ともに高くなっている。
- ・ 活動グループ編成に関する課題では、在籍校が過小規模校である中学校の管理職において、課題認識の割合が高くなっている。

(2) 小規模校の教員に関する課題

- ・ 修学旅行や自然教室（ふれあい合宿）など、学年行事の実施にあたって教員の調整などがしにくいと感じる。

小学校 管理職：56.5% 教員：57.5%

中学校 管理職：54.1% 教員：56.7%

- ・ 指導に当たる教員が少ないため、クラブ活動（部活動）等で児童・生徒の多様な要望に応えることが難しいと感じる。

小学校 管理職：80.4% 教員：74.7%

中学校 管理職：85.7% 教員：82.4%

- ・ 標準規模(12～24 学級)校に比べ教員一人あたりの校務分掌上の負担が大きくなると感じる。

小学校 管理職：92.1% 教員：90.1%

中学校 管理職：83.7% 教員：86.0%

- ・ 不審者の侵入時や災害等の緊急時に他の教員の支援を受けにくく、児童（生徒）の安全を確保しにくいと感じる。

小学校 管理職：52.7% 教員：51.3%

中学校 管理職：47.9% 教員：45.5%

- ・ 教科担任を全教科配置できないため、複数教科の担任や免許外教科の担任が避けられず、教員の負担が大きいためと感じる。（中学校教員のみ）

中学校 教員：70.4%

- ・ 指導に当たる教員が少ないことによる課題認識としては、「クラブ活動や部活動において児童生徒の多様な要望に応えられないこと」と、「校務分掌上の負担が大きくなること」で高くなっている。
- ・ また、中学校において、全教科配置ができないことを課題ととらえている教員の割合が7割を超えている。

(3) 学校運営に関すること

- ・ 教員が個人の判断や裁量に基づく指導に陥りやすいと感じる。(管理職のみ)
小学校管理職：51.0% 中学校管理職：38.2%
- ・ 新任教員や経験が浅い教員の場合、個人の判断や裁量に基づく教育や指導に陥る傾向があると感じる。(管理職のみ)
小学校管理職：57.3% 中学校管理職：40.8%
- ・ 学級担任の配属など校内人事が難しいと感じる。(管理職のみ)
小学校管理職：63.2% 中学校管理職：67.3%
- ・ 教育活動および学校の管理・運営にかかる費用は規模にかかわらず一定額を要するため、効率が悪いと感じる。(管理職のみ)
小学校管理職：56.5% 中学校管理職：58.8%

- ・ 教員の指導力に関する課題認識では、小学校管理職の方が認識の割合が高くなっている。
- ・ 校内人事の課題や費用面についての効率性については、小・中いずれにおいても認識の割合が高くなっている。

小規模小学校の課題についての質問項目

	番号	設問項目	平均値
小規模校の児童集団に関する課題	問1-3	教員と児童との関わりが過剰になるため、児童の自主性の発達が阻害されやすくなると感じる。	2.00
	問1-7	運動会など、学年ごとの演技や種目の実施などでは、児童の発達の段階に応じた活動をしにくいと感じる。	2.28
	問1-4	児童がお互いに刺激しあって学習意欲を高め、学力を向上させることが期待しにくいと感じる。	2.31
	問1-6	児童が集団の中で多様な考え方に触れ、学びあう中で培われる様々な能力が形成されにくく、集団としての活力の低下を生じやすいと感じる。	2.39
	問1-9	体育の授業では、チーム編成などが難しく、活動がしにくいと感じる。	2.48
	問1-8	合唱・合奏など、集団で取り組む学習などでは、グループ編成がしにくいと感じる。	2.57
	問1-5	集団における個々の児童の役割や位置づけが固定化しがちで、社会性が育ちにくいと感じる。	2.63
小規模校の教員に関する課題	問1-14	不審者の侵入時や災害等の緊急時に他の教員の支援を受けにくく、児童の安全を確保しにくいと感じる。	2.55
	問1-10	修学旅行や自然教室など、学年行事の実施にあたって教員の調整などがしにくいと感じる。	2.65
	問1-11	指導に当たる教員が少ないため、クラブ活動等で児童の多様な要望に応えることが難しいと感じる。	2.96
	問1-13	標準規模(12~24 学級)校に比べ教員一人あたりの校務分掌上の負担が大きくなると感じる。	3.43
小規模校のメリット	問1-1	管理職を含めて、全教員がすべての児童を知っているため、生徒指導面の共通理解がしやすいと感じる。	3.36 (1.64)
	問1-2	教員がお互いに協力的で、教員全体の同僚性や協働性が生まれやすいと感じる。	3.24 (1.76)
が困難だった項目	問1-12	日常的な相談や児童についての情報交換ができる教員が学校内にいないと感じる。	1.80
	問1-15	担任の考えや個性を出せる学級経営がしやすいと感じる。	2.93
	問1-16	管理職からの指導や点検的な働きかけが多いように感じる。	2.28

小規模中学校の課題についての質問項目

	番号	設問項目	平均値
課題 小規模校の生徒集団に関する	問1-3	教員と生徒との関わりが過剰になるため、生徒の自主性の発達が阻害されやすくなると感じる。	1.90
	問1-6	生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、学びあう中で培われる様々な能力が形成されにくく、集団としての活力の低下を生じやすいと感じる。	2.19
	問1-4	生徒がお互いに刺激しあって学習意欲を高め、学力を向上させることが期待しにくいと感じる。	2.26
	問1-5	集団における個々の生徒の役割や位置づけが固定化しがちで、社会性が育ちにくいと感じる。	2.35
題 活動グループ編成の課	問1-7	体育祭など、学年ごとの演技や種目の実施などでは、生徒の発達の段階に応じた活動がしにくいと感じる。	2.10
	問1-8	合唱・合奏など、集団で取り組む学習などでは、グループ編成がしにくいと感じる。	2.19
	問1-9	体育の授業では、チーム編成などが難しく、活動がしにくいと感じる。	2.25
	問1-17	教員を学年ごとに配置できず、ヨコ割の時間割が組めないため、日常的な生徒の情報交換がしにくいと感じる。	2.26
小規模校の教員に関する課題	問1-14	不審者の侵入時や災害等の緊急時に他の教員の支援を受けにくく、生徒の安全を確保しにくいと感じる。	2.47
	問1-10	修学旅行やふれあい合宿など、学年行事の実施にあたって教員の調整などがしにくいと感じる。	2.63
	問1-16	教科担任を全教科配置できないため、複数教科の担任や免許外教科の担任が避けられず、教員の負担が大きいと感じる。	2.97
	問1-11	指導に当たる教員が少ないため、部活動等で生徒の多様な要望に応えることが難しいと感じる。	3.17
	問1-13	標準規模(12~24学級)校に比べ教員一人あたりの校務分掌上の負担が大きくなると感じる。	3.33
メリット 小規模校の	問1-2	教員がお互いに協力的で、教員全体の同僚性や協働性が生まれやすいと感じる。	3.12 (1.88)
	問1-1	管理職を含めて、全教員がすべての生徒を知っているため、生徒指導面の共通理解がしやすいと感じる。	3.21 (1.79)
困難だった項目 グループピングが	問1-12	日常的な相談や生徒についての情報交換ができる教員が学校内にいないと感じる。	1.80
	問1-18	管理職からの指導や点検的な働きかけが多いように感じる。	2.19
	問1-15	担任の考えや個性を出せる学級経営がしやすいと感じる。	2.69 (2.31)

大規模小学校の課題についての質問項目

	番号	設問項目	平均値
大規模校の児童集団に関する課題	問2-11	日常的な相談や児童についての情報交換ができる教員が学校内にいないと感じる。	1.91
	問2-6	児童の学級集団に対する所属感・連帯感が希薄になりがちであると感じる。	1.94
	問2-13	不審者の侵入時や災害等の緊急時に他の教員の支援を受けにくく、児童の安全を確保しにくいと感じる。	2.14
	問2-7	児童の学年に対する所属感・連帯感が希薄になり、自主的・実践的な集団活動を学年レベルで展開することが難しくなりがちであると感じる。	2.18
	問2-9	学校全体で教育目標の共通理解が不十分になり、一貫性のある教育活動を推進しにくいと感じる。	2.22
	問2-5	学級を超えた同学年および学校全体としての、児童同士の良好な人間関係が生まれにくいと感じる。	2.30
	問2-8	児童の学校に対する所属感・連帯感が希薄になり、自主的・実践的な集団活動を学校全体で展開することが難しくなりがちであると感じる。	2.32
	問2-12	学級担任によって教科の指導内容や進み具合が異なることが多いと感じる。	2.49
大規模校の教員に関する課題	問2-4	生徒指導では、共通理解に立った適切な指導や対応を欠くおそれがあると感じる。	2.45
	問2-1	教員と児童との関わりが、担任する学級だけにとどまりがちだと感じる。	2.52
	問2-3	学年間の教員相互間の連絡、連携が不十分になりがちだと感じる。	2.59
	問2-2	他学年の児童の性格や行動を把握することが難しいと感じる。	3.19
	問2-10	運動場、体育館の共用や特別教室利用の競合等が生じ、日常の教育活動に支障をきたしやすいと感じる。	3.22
つがが たが 困 難 だ ん の 項 目	問2-14	教員がお互いに協力的で、教員全体の同僚性や協働性が生まれやすいと感じる。	2.53 (2.47)
	問2-15	標準規模(12~24学級)校に比べ、教員一人あたりの校務分掌上の負担が小さくなると感じる。	3.06 (1.94)

大規模中学校の課題についての質問項目

	番号	設問項目	平均値
大規模校の生徒集団に関する課題	問2-11	日常的な相談や生徒についての情報交換ができる教員が学校内にいないと感じる。	1.97
	問2-13	不審者の侵入時や災害等の緊急時に他の教員の支援を受けにくく、生徒の安全を確保しにくいと感じる。	2.01
	問2-6	生徒の学級集団に対する所属感・連帯感が希薄になりがちであると感じる。	2.06
	問2-7	生徒の学年に対する所属感・連帯感が希薄になり、自主的・実践的な集団活動を学年レベルで展開することが難しくなりがちであると感じる。	2.13
	問2-8	生徒の学校に対する所属感・連帯感が希薄になり、自主的・実践的な集団活動を学校全体で展開することが難しくなりがちであると感じる。	2.26
	問2-5	学級を超えた同学年および学校全体としての、生徒同士の良好な人間関係が生まれにくいと感じる。	2.29
	問2-9	学校全体で教育目標の共通理解が不十分になり、一貫性のある教育活動を推進しにくいと感じる。	2.38
大規模校の教員に関する課題	問2-1	教員と生徒との関わりが、担任する学級だけにとどまりがちだと感じる。	2.47
	問2-4	生徒指導では、共通理解に立った適切な指導や対応を欠くおそれがあると感じる。	2.74
	問2-3	学年間の教員相互間の連絡、連携が不十分になりがちだと感じる。	2.92
	問2-2	他学年の生徒の性格や行動を把握することが難しいと感じる。	3.32
大規模校の教科指導・施設に関する課題	問2-12	学級によって同教科の指導内容や授業の進み具合が異なることが多いと感じる。	2.46
	問2-17	同一教科を複数の教員が分担して指導するため、教科の指導目標の達成度や生徒の学習内容の定着度等を全体的に把握しにくいと感じる。	2.63
	問2-10	運動場、体育館の共用や特別教室利用の競合等が生じ、日常の教育活動に支障をきたしやすいと感じる。	2.92
	問2-15	体育館や運動場を使う部活動が制約を受けることが多いと感じる。	3.04
ググが困る項目	問2-16	標準規模(12~24学級)校に比べ、教員一人あたりの校務分掌上の負担が小さくなると感じる。	2.76 (2.24)
	問2-14	教員がお互いに協力的で、教員全体の同僚性や協働性が生まれやすいと感じる。	2.44 (2.56)

資料6 添付 アンケート集計

設問1 小規模校に関する事項(小規模校の勤務経験者のみ回答)

※小規模校:全校で11学級以下の学校規模、特別支援学級を除く

(管理職・教員共通①)管理職を含めて、全教員がすべての児童(生徒)を知っているため、生徒指導面の共通理解がしやすいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	1	.6	10	1.3	3	3.1	19	2.8
2	5	3.1	54	6.9	9	9.2	70	10.2
3	55	33.7	366	46.6	49	50.0	346	50.3
4	102	62.6	355	45.2	37	37.8	253	36.8
合計	163	100.0	785	100.0	98	100.0	688	100.0
欠損値	74		718		17		190	
	平均値	3.58	平均値	3.36	平均値	3.22	平均値	3.21
	標準偏差	0.59	標準偏差	0.67	標準偏差	0.74	標準偏差	0.73

(管理職・教員共通②)教員がお互いに協力的で、教員全体の同僚性や協働性が生まれやすいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	2	1.2	13	1.6	3	3.1	12	1.7
2	14	8.5	78	9.8	13	13.3	98	14.2
3	78	47.6	409	51.3	54	55.1	375	54.3
4	70	42.7	297	37.3	28	28.6	206	29.8
合計	164	100.0	797	100.0	98	100.0	691	100.0
欠損値	73		706		17		187	
	平均値	3.32	平均値	3.24	平均値	3.09	平均値	3.12
	標準偏差	0.68	標準偏差	0.69	標準偏差	0.73	標準偏差	0.70

(管理職・教員共通③)教員と児童(生徒)との関わりが過剰になるため、児童(生徒)の自主性の発達が阻害されやすくなると感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	46	28.0	188	23.7	31	31.6	174	25.3
2	81	49.4	439	55.4	56	57.1	421	61.1
3	35	21.3	141	17.8	11	11.2	84	12.2
4	2	1.2	24	3.0			10	1.5
合計	164	100.0	792	100.0	98	100.0	689	100.0
欠損値	73		711		17		189	
	平均値	1.96	平均値	2.00	平均値	1.80	平均値	1.90
	標準偏差	0.74	標準偏差	0.73	標準偏差	0.63	標準偏差	0.65

(管理職・教員共通④)児童(生徒)がお互いに刺激あつて学習意欲を高め、学力を向上させることが期待しにくいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	13	8.0	97	12.2	15	15.3	96	13.9
2	72	44.2	407	51.1	48	49.0	352	51.1
3	66	40.5	244	30.7	32	32.7	209	30.3
4	12	7.4	48	6.0	3	3.1	32	4.6
合計	163	100.0	796	100.0	98	100.0	689	100.0
欠損値	74		707		17		189	
	平均値	2.47	平均値	2.31	平均値	2.23	平均値	2.26
	標準偏差	0.75	標準偏差	0.76	標準偏差	0.74	標準偏差	0.75

(管理職・教員共通⑤) 集団における個々の児童(生徒)の役割や位置づけが固定化しがちで、社会性が育ちにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	9	5.5	54	6.8	12	12.4	91	13.2
2	あまり思わない	39	23.9	284	35.8	39	40.2	305	44.3
3	まあまあ思う	94	57.7	355	44.8	39	40.2	250	36.3
4	その通りだと思う	21	12.9	100	12.6	7	7.2	42	6.1
合計		163	100.0	793	100.0	97	100.0	688	100.0
欠損値		74		710		18		190	
		平均値	2.78	平均値	2.63	平均値	2.42	平均値	2.35
		標準偏差	0.74	標準偏差	0.79	標準偏差	0.80	標準偏差	0.78

(管理職・教員共通⑥) 児童(生徒)が集団の中で多様な考え方に触れ、学びあう中で培われる様々な能力が形成されにくく、集団としての活力の低下を生じやすいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	12	7.3	72	9.1	11	11.3	104	15.1
2	あまり思わない	58	35.4	378	47.5	50	51.5	373	54.3
3	まあまあ思う	81	49.4	307	38.6	31	32.0	186	27.1
4	その通りだと思う	13	7.9	38	4.8	5	5.2	24	3.5
合計		164	100.0	795	100.0	97	100.0	687	100.0
欠損値		73		708		18		191	
		平均値	2.58	平均値	2.39	平均値	2.31	平均値	2.19
		標準偏差	0.74	標準偏差	0.72	標準偏差	0.74	標準偏差	0.73

(管理職・教員共通⑦) 運動会(体育祭)など、学年ごとの演技や種目の実施などでは、児童(生徒)の発達の段階に応じた活動をしにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	20	12.3	98	12.3	15	15.3	133	19.4
2	あまり思わない	84	51.5	424	53.3	41	41.8	382	55.8
3	まあまあ思う	52	31.9	227	28.5	33	33.7	141	20.6
4	その通りだと思う	7	4.3	47	5.9	9	9.2	29	4.2
合計		163	100.0	796	100.0	98	100.0	685	100.0
欠損値		74		707		17		193	
		平均値	2.28	平均値	2.28	平均値	2.37	平均値	2.10
		標準偏差	0.73	標準偏差	0.75	標準偏差	0.85	標準偏差	0.75

(管理職・教員共通⑧) 合唱・合奏など、集団で取り組む学習などでは、グループ編成がしにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	5	3.1	58	7.3	8	8.2	120	17.5
2	あまり思わない	63	38.9	318	40.2	42	42.9	358	52.2
3	まあまあ思う	75	46.3	324	41.0	39	39.8	167	24.3
4	その通りだと思う	19	11.7	91	11.5	9	9.2	41	6.0
合計		162	100.0	791	100.0	98	100.0	686	100.0
欠損値		75		712		17		192	
		平均値	2.67	平均値	2.57	平均値	2.50	平均値	2.19
		標準偏差	0.72	標準偏差	0.79	標準偏差	0.78	標準偏差	0.79

(管理職・教員共通⑨) 体育の授業では、チーム編成などが難しく、活動がしにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	8	4.9	71	9.0	7	7.1	110	16.3
2	あまり思わない	67	40.9	355	44.8	35	35.7	331	49.2
3	まあまあ思う	72	43.9	284	35.9	43	43.9	189	28.1
4	その通りだと思う	17	10.4	82	10.4	13	13.3	43	6.4
合計		164	100.0	792	100.0	98	100.0	673	100.0
欠損値		73		711		17		205	
		平均値	2.60	平均値	2.48	平均値	2.63	平均値	2.25
		標準偏差	0.74	標準偏差	0.80	標準偏差	0.80	標準偏差	0.80

(管理職・教員共通⑩) 修学旅行や自然教室(ふれあい合宿)など、学年行事の実施にあたって教員の調整などがしにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	22	13.5	60	7.6	13	13.3	78	11.4
2	あまり思わない	49	30.1	276	34.8	32	32.7	220	32.0
3	まあまあ思う	65	39.9	340	42.9	38	38.8	267	38.9
4	その通りだと思う	27	16.6	116	14.6	15	15.3	122	17.8
合計		163	100.0	792	100.0	98	100.0	687	100.0
欠損値		74		711		17		191	
		平均値	2.60	平均値	2.65	平均値	2.56	平均値	2.63
		標準偏差	0.92	標準偏差	0.82	標準偏差	0.91	標準偏差	0.90

(管理職・教員共通⑪) 指導に当たる教員が少ないため、クラブ活動(部活動)等で児童(生徒)の多様な要望に応えることが難しいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	4	2.5	36	4.5	4	4.1	24	3.5
2	あまり思わない	28	17.2	165	20.8	10	10.2	97	14.1
3	まあまあ思う	80	49.1	388	48.8	30	30.6	304	44.1
4	その通りだと思う	51	31.3	206	25.9	54	55.1	264	38.3
合計		163	100.0	795	100.0	98	100.0	689	100.0
欠損値		74		708		17		189	
		平均値	3.09	平均値	2.96	平均値	3.37	平均値	3.17
		標準偏差	0.76	標準偏差	0.80	標準偏差	0.83	標準偏差	0.80

(管理職・教員共通⑫) 日常的な相談や児童(生徒)についての情報交換ができる教員が学校内にいないと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	54	33.3	278	35.1	28	28.6	237	34.5
2	あまり思わない	85	52.5	412	52.0	55	56.1	362	52.7
3	まあまあ思う	18	11.1	86	10.8	13	13.3	78	11.4
4	その通りだと思う	5	3.1	17	2.1	2	2.0	10	1.5
合計		162	100.0	793	100.0	98	100.0	687	100.0
欠損値		75		710		17		191	
		平均値	1.84	平均値	1.80	平均値	1.89	平均値	1.80
		標準偏差	0.74	標準偏差	0.71	標準偏差	0.70	標準偏差	0.69

(管理職・教員共通⑬) 標準規模(12～24学級)校に比べ教員一人あたりの校務分掌上の負担が大きくなると感じる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない		16	2.0	1	1.0	15	2.2	
2	あまり思わない	13	7.9	62	7.8	15	15.3	81	11.8
3	まあまあ思う	57	34.8	282	35.6	45	45.9	256	37.2
4	その通りだと思う	94	57.3	432	54.5	37	37.8	336	48.8
	合計	164	100.0	792	100.0	98	100.0	688	100.0
	欠損値	73		711		17		190	
		平均値	3.49	平均値	3.43	平均値	3.20	平均値	3.33
		標準偏差	0.64	標準偏差	0.72	標準偏差	0.73	標準偏差	0.77

(管理職・教員共通⑭) 不審者の侵入時や災害等の緊急時に他の教員の支援を受けにくく、児童(生徒)の安全を確保しにくいと感じる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない	12	7.3	64	8.0	9	9.2	63	9.2
2	あまり思わない	66	40.0	324	40.7	42	42.9	312	45.4
3	まあまあ思う	64	38.8	312	39.2	41	41.8	236	34.4
4	その通りだと思う	23	13.9	96	12.1	6	6.1	76	11.1
	合計	165	100.0	796	100.0	98	100.0	687	100.0
	欠損値	72		707		17		191	
		平均値	2.59	平均値	2.55	平均値	2.45	平均値	2.47
		標準偏差	0.82	標準偏差	0.81	標準偏差	0.75	標準偏差	0.81

(管理職・教員共通⑮) 担任の考えや個性を出せる学級経営がしやすいと感じる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない	5	3.0	23	2.9	6	6.1	34	4.9
2	あまり思わない	49	29.7	155	19.6	43	43.9	228	33.2
3	まあまあ思う	77	46.7	465	58.9	44	44.9	345	50.2
4	その通りだと思う	34	20.6	147	18.6	5	5.1	80	11.6
	合計	165	100.0	790	100.0	98	100.0	687	100.0
	欠損値	72		713		17		191	
		平均値	2.85	平均値	2.93	平均値	2.49	平均値	2.69
		標準偏差	0.78	標準偏差	0.70	標準偏差	0.69	標準偏差	0.74

(中学校教員のみ①) 教科担任を全教科配置できないため、複数教科の担任や免許外教科の担任が避けられず、教員の負担が大きいとを感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない						58	8.5
2	あまり思わない						144	21.1
3	まあまあ思う						238	34.9
4	その通りだと思う						242	35.5
	合計						682	100.0
	欠損値						196	
		平均値		平均値		平均値		2.97
		標準偏差		標準偏差		標準偏差		0.95

(中学校教員のみ②)教員を学年ごとに配置できず、ヨコ割の時間割が組めないため、日常的な生徒の情報交換がしにくいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない						99	14.4
2	あまり思わない						359	52.2
3	まあまあ思う						182	26.5
4	その通りだと思う						48	7.0
合計							688	100.0
欠損値							190	
		平均値		平均値		平均値	平均値	2.26
		標準偏差		標準偏差		標準偏差	標準偏差	0.79

(小・中学校教員①)管理職からの指導や点検的な働きかけが多いように感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない		76	9.6			92	13.4
2	あまり思わない		459	58.1			410	59.8
3	まあまあ思う		211	26.7			148	21.6
4	その通りだと思う		44	5.6			36	5.2
合計			790	100.0			686	100.0
欠損値			713				192	
		平均値		平均値	2.28	平均値	平均値	2.19
		標準偏差		標準偏差	0.71	標準偏差	標準偏差	0.73

(小・中学校管理職②)同学年の教員間で、生徒指導に関する課題や指導効果等について相互の研修や評価がしにくいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	26	15.9			12	12.2	
2	あまり思わない	71	43.3			66	67.3	
3	まあまあ思う	59	36.0			18	18.4	
4	その通りだと思う	8	4.9			2	2.0	
合計		164	100.0			98	100.0	
欠損値		73				17		
		平均値	2.30	平均値		平均値	2.10	平均値
		標準偏差	0.79	標準偏差		標準偏差	0.62	標準偏差

(小・中学校管理職①)教員の協働による活動の機会が少なく、教育技術の向上や改善が難しいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	42	25.5			23	23.5	
2	あまり思わない	86	52.1			51	52.0	
3	まあまあ思う	35	21.2			22	22.4	
4	その通りだと思う	2	1.2			2	2.0	
合計		165	100.0			98	100.0	
欠損値		72				17		
		平均値	1.98	平均値		平均値	2.03	平均値
		標準偏差	0.72	標準偏差		標準偏差	0.74	標準偏差

(小・中学校管理職②) 教員が個人の判断や裁量に基づく指導に陥りやすいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	13	7.9			14	14.4		
2	あまり思わない	68	41.2			46	47.4		
3	まあまあ思う	75	45.5			31	32.0		
4	その通りだと思う	9	5.5			6	6.2		
合計		165	100.0			97	100.0		
欠損値		72				18			
		平均値	2.48	平均値		平均値	2.30	平均値	
		標準偏差	0.72	標準偏差		標準偏差	0.79	標準偏差	

(小・中学校管理職③) 新任教員や経験が浅い教員の場合、個人の判断や裁量に基づく教育や指導に陥る傾向があると感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	9	5.5			8	8.2		
2	あまり思わない	61	37.2			50	51.0		
3	まあまあ思う	83	50.6			34	34.7		
4	その通りだと思う	11	6.7			6	6.1		
合計		164	100.0			98	100.0		
欠損値		73				17			
		平均値	2.59	平均値		平均値	2.39	平均値	
		標準偏差	0.70	標準偏差		標準偏差	0.73	標準偏差	

(小・中学校管理職④) 校務分掌, 研修会や行事などで, 教育効果を十分にあげ得る教員組織を編成することが難しいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	20	12.3			13	13.3		
2	あまり思わない	69	42.6			48	49.0		
3	まあまあ思う	56	34.6			34	34.7		
4	その通りだと思う	17	10.5			3	3.1		
合計		162	100.0			98	100.0		
欠損値		75				17			
		平均値	2.43	平均値		平均値	2.28	平均値	
		標準偏差	0.84	標準偏差		標準偏差	0.73	標準偏差	

(小・中学校管理職⑤) 学級担任の配属など校内人事が難しいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	9	5.5			5	5.1		
2	あまり思わない	51	31.3			27	27.6		
3	まあまあ思う	66	40.5			49	50.0		
4	その通りだと思う	37	22.7			17	17.3		
合計		163	100.0			98	100.0		
欠損値		74				17			
		平均値	2.80	平均値		平均値	2.80	平均値	
		標準偏差	0.85	標準偏差		標準偏差	0.79	標準偏差	

(小・中学校管理職⑥)教育活動および学校の管理・運営にかかる費用は規模にかかわらず一定額を要するため、効率が悪いと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	18	11.2			5	5.2		
2	あまり思わない	52	32.3			35	36.1		
3	まあまあ思う	73	45.3			42	43.3		
4	その通りだと思う	18	11.2			15	15.5		
合計		161	100.0			97	100.0		
欠損値		76				18			
		平均値	2.57	平均値		平均値	2.69	平均値	
		標準偏差	0.84	標準偏差		標準偏差	0.80	標準偏差	

設問2 大規模校に関する事項(大規模校の勤務経験者のみ回答)

※大規模校:全校で25学級以下の学校規模、特別支援学級を除く

(管理職・教員共通①)教員と児童(生徒)との関わりが、担任する学級だけにとどまりがちだと感じる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない	7	5.3	45	7.0	8	13.1	20	7.4
2	あまり思わない	50	38.2	269	41.8	25	41.0	119	43.8
3	まあまあ思う	61	46.6	281	43.7	27	44.3	117	43.0
4	その通りだと思う	13	9.9	48	7.5	1	1.6	16	5.9
	合計	131	100.0	643	100.0	61	100.0	272	100.0
	欠損値	106		860		54		606	
	平均値		2.61	平均値	2.52	平均値	2.34	平均値	2.47
	標準偏差		0.74	標準偏差	0.73	標準偏差	0.73	標準偏差	0.72

(管理職・教員共通②)他学年の児童(生徒)の性格や行動を把握することが難しいと感じる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない	2	1.5	10	1.6	2	3.3	4	1.5
2	あまり思わない	20	15.2	63	9.8	9	14.8	26	9.6
3	まあまあ思う	63	47.7	361	56.3	30	49.2	119	43.9
4	その通りだと思う	47	35.6	207	32.3	20	32.8	122	45.0
	合計	132	100.0	641	100.0	61	100.0	271	100.0
	欠損値	105		862		54		607	
	平均値		3.17	平均値	3.19	平均値	3.11	平均値	3.32
	標準偏差		0.74	標準偏差	0.67	標準偏差	0.78	標準偏差	0.71

(管理職・教員共通③)学年間の教員相互間の連絡、連携が不十分になりがちだと感じる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない	10	7.6	59	9.0	2	3.2	8	2.8
2	あまり思わない	45	34.4	220	33.6	17	27.0	69	24.0
3	まあまあ思う	60	45.8	307	46.9	32	50.8	148	51.4
4	その通りだと思う	16	12.2	69	10.5	12	19.0	63	21.9
	合計	131	100.0	655	100.0	63	100.0	288	100.0
	欠損値	106		848		52		590	
	平均値		2.63	平均値	2.59	平均値	2.86	平均値	2.92
	標準偏差		0.80	標準偏差	0.80	標準偏差	0.76	標準偏差	0.75

(管理職・教員共通④)生徒指導では、共通理解に立った適切な指導や対応を欠くおそれがあると感じる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない	8	6.1	52	7.9	3	4.8	5	1.8
2	あまり思わない	57	43.2	309	47.0	29	46.0	95	33.5
3	まあまあ思う	55	41.7	245	37.3	25	39.7	153	53.9
4	その通りだと思う	12	9.1	51	7.8	6	9.5	31	10.9
	合計	132	100.0	657	100.0	63	100.0	284	100.0
	欠損値	105		846		52		594	
	平均値		2.54	平均値	2.45	平均値	2.54	平均値	2.74
	標準偏差		0.75	標準偏差	0.75	標準偏差	0.74	標準偏差	0.67

(管理職・教員共通⑤)学級を超えた同学年および学校全体としての、児童(生徒)同士の良好な人間関係が生まれにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	8	6.1	65	9.9	8	12.7	23	8.1
2	あまり思わない	73	55.3	357	54.5	39	61.9	164	58.0
3	まあまあ思う	44	33.3	204	31.1	12	19.0	87	30.7
4	その通りだと思う	7	5.3	29	4.4	4	6.3	9	3.2
合計		132	100.0	655	100.0	63	100.0	283	100.0
欠損値		105		848		52		595	
		平均値	2.38	平均値	2.30	平均値	2.19	平均値	2.29
		標準偏差	0.68	標準偏差	0.71	標準偏差	0.74	標準偏差	0.66

(管理職・教員共通⑥)児童(生徒)の学級集団に対する所属感・連帯感が希薄になりがちであると感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	37	28.0	147	22.5	19	30.2	36	12.7
2	あまり思わない	84	63.6	410	62.9	39	61.9	202	71.1
3	まあまあ思う	11	8.3	79	12.1	3	4.8	38	13.4
4	その通りだと思う			16	2.5	2	3.2	8	2.8
合計		132	100.0	652	100.0	63	100.0	284	100.0
欠損値		105		851		52		594	
		平均値	1.80	平均値	1.94	平均値	1.81	平均値	2.06
		標準偏差	0.57	標準偏差	0.67	標準偏差	0.67	標準偏差	0.61

(管理職・教員共通⑦)児童(生徒)の学年に対する所属感・連帯感が希薄になり、自主的・実践的な集団活動を学年レベルで展開することが難しくなりがちであると感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	28	21.2	88	13.5	15	23.8	36	12.7
2	あまり思わない	82	62.1	380	58.4	42	66.7	180	63.6
3	まあまあ思う	20	15.2	164	25.2	6	9.5	61	21.6
4	その通りだと思う	2	1.5	19	2.9			6	2.1
合計		132	100.0	651	100.0	63	100.0	283	100.0
欠損値		105		852		52		595	
		平均値	1.97	平均値	2.18	平均値	1.86	平均値	2.13
		標準偏差	0.65	標準偏差	0.69	標準偏差	0.56	標準偏差	0.64

(管理職・教員共通⑧)児童(生徒)の学校に対する所属感・連帯感が希薄になり、自主的・実践的な集団活動を学校全体で展開することが難しくなりがちであると感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	16	12.1	64	9.8	10	15.9	26	9.1
2	あまり思わない	79	59.8	353	53.8	39	61.9	168	58.9
3	まあまあ思う	33	25.0	206	31.4	11	17.5	81	28.4
4	その通りだと思う	4	3.0	33	5.0	3	4.8	10	3.5
合計		132	100.0	656	100.0	63	100.0	285	100.0
欠損値		105		847		52		593	
		平均値	2.19	平均値	2.32	平均値	2.11	平均値	2.26
		標準偏差	0.68	標準偏差	0.72	標準偏差	0.72	標準偏差	0.67

(管理職・教員共通⑨)学校全体で教育目標の共通理解が不十分になり、一貫性のある教育活動を推進しにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	15	11.5	75	11.5	12	19.0	23	8.1
2	あまり思わない	67	51.1	379	57.9	28	44.4	145	50.9
3	まあまあ思う	44	33.6	181	27.6	22	34.9	104	36.5
4	その通りだと思う	5	3.8	20	3.1	1	1.6	13	4.6
合計		131	100.0	655	100.0	63	100.0	285	100.0
欠損値		106		848		52		593	
		平均値	2.30	平均値	2.22	平均値	2.19	平均値	2.38
		標準偏差	0.72	標準偏差	0.68	標準偏差	0.76	標準偏差	0.70

(管理職・教員共通⑩)運動場、体育館の共用や特別教室利用の競合等が生じ、日常の教育活動に支障をきたしやすいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	2	1.5	17	2.6	1	1.6	14	4.9
2	あまり思わない	12	9.1	69	10.5	12	19.0	63	22.2
3	まあまあ思う	61	46.2	323	49.3	29	46.0	138	48.6
4	その通りだと思う	57	43.2	246	37.6	21	33.3	69	24.3
合計		132	100.0	655	100.0	63	100.0	284	100.0
欠損値		105		848		52		594	
		平均値	3.31	平均値	3.22	平均値	3.11	平均値	2.92
		標準偏差	0.70	標準偏差	0.73	標準偏差	0.76	標準偏差	0.81

(管理職・教員共通⑪)日常的な相談や児童(生徒)についての情報交換ができる教員が学校内にいないと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	30	22.9	172	26.3	20	32.3	56	19.6
2	あまり思わない	86	65.6	385	58.8	38	61.3	187	65.6
3	まあまあ思う	15	11.5	86	13.1	4	6.5	37	13.0
4	その通りだと思う			12	1.8			5	1.8
合計		131	100.0	655	100.0	62	100.0	285	100.0
欠損値		106		848		53		593	
		平均値	1.89	平均値	1.91	平均値	1.74	平均値	1.97
		標準偏差	0.58	標準偏差	0.68	標準偏差	0.57	標準偏差	0.63

(管理職・教員共通⑫)学級(担任)によって教科の指導内容や進み具合が異なることが多いと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	4	3.0	32	4.9	3	4.8	14	4.9
2	あまり思わない	52	39.4	301	46.1	24	38.1	143	50.2
3	まあまあ思う	69	52.3	287	44.0	32	50.8	112	39.3
4	その通りだと思う	7	5.3	33	5.1	4	6.3	16	5.6
合計		132	100.0	653	100.0	63	100.0	285	100.0
欠損値		105		850		52		593	
		平均値	2.60	平均値	2.49	平均値	2.59	平均値	2.46
		標準偏差	0.64	標準偏差	0.67	標準偏差	0.69	標準偏差	0.68

(管理職・教員共通⑬)不審者の侵入時や災害等の緊急時に他の教員の支援を受けにくく、児童(生徒)の安全を確保しにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	23	17.4	105	16.0	15	23.8	55	19.3
2	あまり思わない	85	64.4	379	57.8	40	63.5	177	62.1
3	まあまあ思う	15	11.4	149	22.7	6	9.5	48	16.8
4	その通りだと思う	9	6.8	23	3.5	2	3.2	5	1.8
合計		132	100.0	656	100.0	63	100.0	285	100.0
欠損値		105		847		52		593	
		平均値	2.08	平均値	2.14	平均値	1.92	平均値	2.01
		標準偏差	0.75	標準偏差	0.71	標準偏差	0.68	標準偏差	0.66

(管理職・教員共通⑭)教員がお互いに協力的で、教員全体の同僚性や協働性が生まれやすいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	8	6.1	31	4.8	1	1.6	16	5.6
2	あまり思わない	79	59.8	280	42.9	37	58.7	138	48.4
3	まあまあ思う	43	32.6	305	46.8	23	36.5	121	42.5
4	その通りだと思う	2	1.5	36	5.5	2	3.2	10	3.5
合計		132	100.0	652	100.0	63	100.0	285	100.0
欠損値		105		851		52		593	
		平均値	2.30	平均値	2.53	平均値	2.41	平均値	2.44
		標準偏差	0.60	標準偏差	0.67	標準偏差	0.59	標準偏差	0.66

(管理職・教員共通⑮)標準規模(12~24学級)校に比べ、教員一人あたりの校務分掌上の負担が小さく感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	1	.8	31	4.7	2	3.2	18	6.3
2	あまり思わない	16	12.1	114	17.5	17	27.0	84	29.6
3	まあまあ思う	65	49.2	295	45.2	33	52.4	131	46.1
4	その通りだと思う	50	37.9	213	32.6	11	17.5	51	18.0
合計		132	100.0	653	100.0	63	100.0	284	100.0
欠損値		105		850		52		594	
		平均値	3.24	平均値	3.06	平均値	2.84	平均値	2.76
		標準偏差	0.69	標準偏差	0.83	標準偏差	0.75	標準偏差	0.82

(中学校教員のみ①)体育館や運動場を使う部活動が制約を受けることが多いと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない							9	3.2
2	あまり思わない							46	16.3
3	まあまあ思う							153	54.1
4	その通りだと思う							75	26.5
合計								283	100.0
欠損値								595	
		平均値		平均値		平均値		平均値	3.04
		標準偏差		標準偏差		標準偏差		標準偏差	0.75

(中学校教員のみ②)同一教科を複数の教員が分担して指導するため、教科の指導目標の達成度や生徒の学習内容の定着度等を全体的に把握しにくいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない						16	5.6
2	あまり思わない						104	36.6
3	まあまあ思う						133	46.8
4	その通りだと思う						31	10.9
	合計						284	100.0
	欠損値						594	
		平均値		平均値		平均値	平均値	2.63
		標準偏差		標準偏差		標準偏差	標準偏差	0.75

(小・中学校管理職①)管理職と個々の教員との関わりが浅くなりがちで、相互の理解が不十分となる傾向が強いと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	4	3.0			5	7.9	
2	あまり思わない	63	47.7			30	47.6	
3	まあまあ思う	53	40.2			24	38.1	
4	その通りだと思う	12	9.1			4	6.3	
	合計	132	100.0			63	100.0	
	欠損値	105				52		
		平均値	2.55	平均値		平均値	2.43	平均値
		標準偏差	0.70	標準偏差		標準偏差	0.73	標準偏差

(小・中学校管理職②)同学年の教員間で、教育課題や指導効果等について相互の研修や評価がしにくいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	14	10.7			5	7.9	
2	あまり思わない	96	73.3			35	55.6	
3	まあまあ思う	21	16.0			21	33.3	
4	その通りだと思う					2	3.2	
	合計	131	100.0			63	100.0	
	欠損値	106				52		
		平均値	2.05	平均値		平均値	2.32	平均値
		標準偏差	0.52	標準偏差		標準偏差	0.67	標準偏差

(小・中学校管理職③)教員の協働による活動の機会が少なく、結果として教育技術の向上や改善が難しいと感じる。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	14	10.6			9	14.3	
2	あまり思わない	97	73.5			43	68.3	
3	まあまあ思う	20	15.2			11	17.5	
4	その通りだと思う	1	.8					
	合計	132	100.0			63	100.0	
	欠損値	105				52		
		平均値	2.06	平均値		平均値	2.03	平均値
		標準偏差	0.54	標準偏差		標準偏差	0.57	標準偏差

(小・中学校管理職④)教員が個人の判断や裁量に基づく指導に陥りやすいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	12	9.1			6	9.5		
2	あまり思わない	77	58.3			40	63.5		
3	まあまあ思う	42	31.8			14	22.2		
4	その通りだと思う	1	.8			3	4.8		
合計		132	100.0			63	100.0		
欠損値		105				52			
		平均値	2.24	平均値		平均値	2.22	平均値	
		標準偏差	0.62	標準偏差		標準偏差	0.68	標準偏差	

(小・中学校管理職⑤)新任教員や経験の浅い教員の場合には、個人の判断や裁量に基づく教育、指導に陥る傾向が大きいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	19	14.4			4	6.3		
2	あまり思わない	83	62.9			49	77.8		
3	まあまあ思う	28	21.2			10	15.9		
4	その通りだと思う	2	1.5						
合計		132	100.0			63	100.0		
欠損値		105				52			
		平均値	2.10	平均値		平均値	2.10	平均値	
		標準偏差	0.64	標準偏差		標準偏差	0.47	標準偏差	

(小・中学校管理職⑥)校務分掌, 研修会や行事などで, 教育効果を十分にあげ得る教員組織を編成することが難しいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	17	13.0			7	11.1		
2	あまり思わない	82	62.6			42	66.7		
3	まあまあ思う	30	22.9			13	20.6		
4	その通りだと思う	2	1.5			1	1.6		
合計		131	100.0			63	100.0		
欠損値		106				52			
		平均値	2.13	平均値		平均値	2.13	平均値	
		標準偏差	0.64	標準偏差		標準偏差	0.61	標準偏差	

(小・中学校管理職⑦)学校運営等の会議において, きめ細かい議論がしにくいいため, 全体の共通理解を欠き, 十分な成果をあげにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	10	7.6			8	12.7		
2	あまり思わない	74	56.1			29	46.0		
3	まあまあ思う	45	34.1			24	38.1		
4	その通りだと思う	3	2.3			2	3.2		
合計		132	100.0			63	100.0		
欠損値		105				52			
		平均値	2.31	平均値		平均値	2.32	平均値	
		標準偏差	0.64	標準偏差		標準偏差	0.74	標準偏差	

(小・中学校管理職⑧)校長の経営方針や経営ビジョンの共通理解、および、その共有が難しく、時間がかかると感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	5	3.8			5	7.9		
2	あまり思わない	69	52.7			28	44.4		
3	まあまあ思う	53	40.5			27	42.9		
4	その通りだと思う	4	3.1			3	4.8		
合計		131	100.0			63	100.0		
欠損値		106				52			
		平均値	2.43	平均値		平均値	2.44	平均値	
		標準偏差	0.62	標準偏差		標準偏差	0.71	標準偏差	

(小・中学校管理職⑨)教育活動の質を高めるための教職員の協力体制や風土づくりが難しいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	8	6.1			7	11.1		
2	あまり思わない	66	50.0			32	50.8		
3	まあまあ思う	54	40.9			22	34.9		
4	その通りだと思う	4	3.0			2	3.2		
合計		132	100.0			63	100.0		
欠損値		105				52			
		平均値	2.41	平均値		平均値	2.30	平均値	
		標準偏差	0.65	標準偏差		標準偏差	0.71	標準偏差	

(中学校管理職のみ)同一教科を複数の教員が分担して指導するため、教科の指導目標の達成度や生徒の学習内容の定着度等を全体的に把握しにくいと感じる。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない					3	4.8		
2	あまり思わない					24	38.1		
3	まあまあ思う					32	50.8		
4	その通りだと思う					4	6.3		
合計						63	100.0		
欠損値						52			
		平均値		平均値		平均値	2.59	平均値	
		標準偏差		標準偏差		標準偏差	0.69	標準偏差	

設問3 共通事項(全員回答)

(管理職・教員共通①)現在の学校における在籍年数

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1年目	77	34.4	417	28.5	40	35.1	266	31.0
2年目	71	31.7	371	25.3	43	37.7	214	25.0
3年目	59	26.3	284	19.4	22	19.3	171	20.0
4年目	11	4.9	169	11.5	9	7.9	86	10.0
5年目	5	2.2	129	8.8			62	7.2
6年目	1	.4	90	6.1			52	6.1
7年目			4	.3			6	.7
合計	224	100.0	1,464	100.0	114	100.0	857	100.0
欠損値	13		39		1		21	
	平均値	2.10	平均値	2.66	平均値	2.00	平均値	2.58
	標準偏差	1.03	標準偏差	1.53	標準偏差	0.93	標準偏差	1.54

(管理職・教員共通②)現在の学校は、自校の課題を見つけ、自ら積極的に教職員へ発信しやすい環境である。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	4	1.7	28	1.9	1	.9	31	3.6
2	あまり思わない	14	5.9	283	19.0	7	6.1	188	21.7
3	まあまあ思う	129	54.4	875	58.7	71	61.7	534	61.5
4	その通りだと思う	90	38.0	304	20.4	36	31.3	115	13.2
	合計	237	100.0	1,490	100.0	115	100.0	868	100.0
	欠損値			13				10	
	平均値	3.29		2.98		3.23		2.84	
	標準偏差	0.65		0.68		0.60		0.68	

(管理職・教員共通③)現在の学校は、自校の課題解決のため、自ら率先してチームづくり等を行いやすい環境である。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	2	.8	44	3.0			42	4.8
2	あまり思わない	36	15.2	382	25.6	14	12.2	251	28.9
3	まあまあ思う	137	57.8	814	54.6	74	64.3	476	54.7
4	その通りだと思う	62	26.2	250	16.8	27	23.5	101	11.6
	合計	237	100.0	1,490	100.0	115	100.0	870	100.0
	欠損値			13				8	
	平均値	3.09		2.85		3.11		2.73	
	標準偏差	0.66		0.72		0.59		0.73	

(管理職・教員共通④)現在の学校は、自校の課題解決へ向け、周囲の教職員と日常的に自らコミュニケーションを図りやすい環境である。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない	2	.8	30	2.0			21	2.4
2	あまり思わない	17	7.2	183	12.2	8	7.0	138	15.9
3	まあまあ思う	135	57.0	861	57.6	71	61.7	528	60.9
4	その通りだと思う	83	35.0	420	28.1	36	31.3	180	20.8
	合計	237	100.0	1,494	100.0	115	100.0	867	100.0
	欠損値			9				11	
	平均値	3.26		3.12		3.24		3.00	
	標準偏差	0.62		0.69		0.57		0.68	

(小・中学校管理職)現在の学校では、病気などで休みがちな教員の状況を把握したり、本人とのコミュニケーションを図ったりしながら自ら相談に応じている。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない	1	.4			1	.9		
2	あまり思わない	5	2.2			4	3.5		
3	まあまあ思う	135	58.2			67	58.3		
4	その通りだと思う	91	39.2			43	37.4		
	合計	232	100.0			115	100.0		
	欠損値	5							
		平均値	3.36	平均値		平均値	3.32	平均値	
		標準偏差	0.55	標準偏差		標準偏差	0.59	標準偏差	

(小・中学校教員①)概ね勤務時間内に仕事を終わることができる。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない			838	56.5			507	58.7
2	あまり思わない			431	29.0			210	24.3
3	まあまあ思う			179	12.1			124	14.4
4	その通りだと思う			36	2.4			23	2.7
	合計			1,484	100.0			864	100.0
	欠損値			19				14	
		平均値		平均値	1.60	平均値		平均値	1.61
		標準偏差		標準偏差	0.79	標準偏差		標準偏差	0.83

(小・中学校教員②)同僚とはだれか

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	同学年			355	24.7			179	21.0
2	他学年			72	5.0			21	2.5
3	教科に関して相			284	19.7			52	6.1
4	その他			729	50.6			601	70.5
	合計			1,440	100.0			853	100.0
	欠損値			63				25	
		平均値		平均値	2.96	平均値		平均値	3.26
		標準偏差		標準偏差	1.24	標準偏差		標準偏差	1.23

(小・中学校教員③)忙しい時に同僚と助け合える環境である。

集計	小学校				中学校				
	管理職		教員		管理職		教員		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1	思わない			20	1.3			16	1.8
2	あまり思わない			106	7.1			94	10.8
3	まあまあ思う			703	47.1			486	56.0
4	その通りだと思う			663	44.4			272	31.3
	合計			1,492	100.0			868	100.0
	欠損値			11				10	
		平均値		平均値	3.35	平均値		平均値	3.17
		標準偏差		標準偏差	0.67	標準偏差		標準偏差	0.68

(小・中学校教員④)自分を理解してくれている同僚がいる環境である。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない		13	.9			14	1.6
2	あまり思わない		114	7.6			99	11.4
3	まあまあ思う		750	50.3			474	54.5
4	その通りだと思う		615	41.2			282	32.5
	合計		1,492	100.0			869	100.0
	欠損値		11				9	
	平均値		平均値	3.32	平均値		平均値	3.18
	標準偏差		標準偏差	0.65	標準偏差		標準偏差	0.69

(小・中学校教員⑤)同僚との人間関係に悩みを感じる時がある。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない		390	26.2			185	21.3
2	あまり思わない		722	48.6			406	46.7
3	まあまあ思う		296	19.9			232	26.7
4	その通りだと思う		79	5.3			46	5.3
	合計		1,487	100.0			869	100.0
	欠損値		16				9	
	平均値		平均値	2.04	平均値		平均値	2.16
	標準偏差		標準偏差	0.82	標準偏差		標準偏差	0.82

(小・中学校教員⑥)同僚と生徒指導の方針について相談しやすい環境である。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない		11	.7			17	2.0
2	あまり思わない		103	6.9			78	9.0
3	まあまあ思う		687	46.2			497	57.6
4	その通りだと思う		686	46.1			271	31.4
	合計		1,487	100.0			863	100.0
	欠損値		16				15	
	平均値		平均値	3.38	平均値		平均値	3.18
	標準偏差		標準偏差	0.65	標準偏差		標準偏差	0.67

(小・中学校教員⑦)他学年や他教科の教員に相談しやすい環境である。

集計	小学校				中学校			
	管理職		教員		管理職		教員	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない		20	1.3			23	2.7
2	あまり思わない		196	13.1			160	18.5
3	まあまあ思う		815	54.6			474	54.8
4	その通りだと思う		461	30.9			208	24.0
	合計		1,492	100.0			865	100.0
	欠損値		11				13	
	平均値		平均値	3.15	平均値		平均値	3.00
	標準偏差		標準偏差	0.69	標準偏差		標準偏差	0.73

(小・中学校教員⑧)管理職に相談しやすい環境である。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない			32	2.1			27	3.1
2	あまり思わない			127	8.5			111	12.8
3	まあまあ思う			759	51.0			472	54.4
4	その通りだと思う			571	38.3			258	29.7
合計				1,489	100.0			868	100.0
欠損値				14				10	
		平均値		平均値	3.26	平均値		平均値	3.11
		標準偏差		標準偏差	0.70	標準偏差		標準偏差	0.73

(小・中学校教員⑨)職場の人間関係を理解している。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない			50	3.4			29	3.4
2	あまり思わない			389	26.2			214	24.8
3	まあまあ思う			911	61.5			548	63.4
4	その通りだと思う			132	8.9			73	8.4
合計				1,482	100.0			864	100.0
欠損値				21				14	
		平均値		平均値	2.76	平均値		平均値	2.77
		標準偏差		標準偏差	0.65	標準偏差		標準偏差	0.64

(小・中学校教員⑩)年次休暇等がとりやすい環境である。

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	思わない			120	8.1			128	14.7
2	あまり思わない			354	23.9			258	29.7
3	まあまあ思う			715	48.2			364	41.9
4	その通りだと思う			295	19.9			118	13.6
合計				1,484	100.0			868	100.0
欠損値				19				10	
		平均値		平均値	2.80	平均値		平均値	2.54
		標準偏差		標準偏差	0.85	標準偏差		標準偏差	0.90

(管理職・教員共通⑤)小規模校はメリットかデメリットか

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	デメリットが大きい	81	36.2	492	35.4	44	40.7	237	29.5
2	メリットが大きい	143	63.8	897	64.6	64	59.3	566	70.5
合計		224	100.0	1,389	100.0	108	100.0	803	100.0
欠損値		13		114		7		75	
		平均値	1.64	平均値	1.65	平均値	1.59	平均値	1.70
		標準偏差	0.48	標準偏差	0.48	標準偏差	0.49	標準偏差	0.46

(管理職・教員共通⑥)大規模校はメリットかデメリットか

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	デメリットが大きい	177	79.0	884	63.8	66	61.1	512	64.2
2	メリットが大きい	47	21.0	502	36.2	42	38.9	285	35.8
合計		224	100.0	1,386		108	100.0	797	100.0
欠損値		13		117		7		81	
		平均値	1.21	平均値	1.36	平均値	1.39	平均値	1.36
		標準偏差	0.41	標準偏差	0.48	標準偏差	0.49	標準偏差	0.48

(管理職・教員共通⑦)理想の学年規模

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	1学級			12	.8			1	.1
2	2学級	46	19.7	271	18.4			3	.3
3	3学級	168	72.1	982	66.7	7	6.2	101	11.7
4	4学級	11	4.7	173	11.7	56	49.6	446	51.9
5	5学級	1	.4	6	.4	16	14.2	176	20.5
6	6学級	7	3.0	29	2.0	23	20.4	104	12.1
7	7学級							5	.6
8	8学級					11	9.7	24	2.8
合計		233	100.0	1,473	100.0	113	100.0	860	100.0
欠損値		4		30		2		18	
		平均値	2.95	平均値	2.98	平均値	4.88	平均値	4.45
		標準偏差	0.73	標準偏差	0.73	標準偏差	1.35	標準偏差	1.06

(管理職・教員共通⑧)理想の学級規模:下限

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	40人	1	.4	1	.1				
2	35人	3	1.3	10	.7	2	1.8	7	.8
3	30人	6	2.6	21	1.4	8	7.1	28	3.3
4	25人	46	19.6	242	16.4	61	54.0	437	50.8
5	20人	160	68.1	987	66.9	38	33.6	317	36.9
6	15人以下	19	8.1	214	14.5	4	3.5	71	8.3
合計		235	100.0	1,475	100.0	113	100.0	860	100.0
欠損値		2		28		2		18	
		平均値	4.78	平均値	4.93	平均値	4.30	平均値	4.48
		標準偏差	0.72	標準偏差	0.66	標準偏差	0.73	標準偏差	0.73

(管理職・教員共通⑨)理想の学級規模:上限

集計		小学校				中学校			
		管理職		教員		管理職		教員	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1	40人	3	1.3	4	.3	1	.9	13	1.5
2	35人	47	20.5	193	13.4	51	44.7	286	33.4
3	30人	168	73.4	1,032	71.4	57	50.0	520	60.7
4	25人	8	3.5	172	11.9	3	2.6	25	2.9
5	20人	3	1.3	42	2.9	1	.9	10	1.2
6	15人以下			2	.1	1	.9	3	.4
合計		229	100.0	1,445	100.0	114	100.0	857	100.0
欠損値		8		58		1		21	
		平均値	2.83	平均値	3.04	平均値	2.61	平均値	2.70
		標準偏差	0.56	標準偏差	0.63	標準偏差	0.69	標準偏差	0.64

資料7 学校規模によるメリット・デメリット（例）

中央教育審議会 初等中等教育分科会
 小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会資料
 （平成20年12月2日第8回作業部会配付資料）

※ 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。	○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○ 児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。	○ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	
【生活面】	○ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。	○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。	○ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。	○ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【生活面】	○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	○ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	
	○ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	○ 全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
【学校運営面・財政面】	○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○ 学校が一体となって活動しやすい。	○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。	○ 教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○ 校務分掌を組織的に行きやすい。 ○ 出張、研修等に参加しやすい。	○ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	○ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	○ 子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	○ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
	○ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○ PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	○ PTA 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	○ 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

発行／北九州市教育委員会総務部企画課
〒803-8510 北九州市小倉北区大手町1番1号
電話 093-582-2357、FAX 093-581-5871
Eメール kyou-kikaku@city.kitakyushu.lg.jp
北九州市印刷物登録番号 第1331093A号

※この印刷物は、リサイクル適正Aに該当しています。